

Canon

MACRO TWIN LITE MT-26EX-RT



J

使用説明書

はじめに

キヤノンマクロツインライト MT-26EX-RTは、E-TTL II/E-TTL自動調光に対応したEOS用近接撮影用ストロボです。発光部A, Bの光量比制御、片側発光、レシーバーストロボを追加した電波通信／光通信ワイヤレス増灯撮影、マニュアル発光機能など、簡単な撮影から高度な撮影まで、撮影意図に適応するさまざまな機能を備えています。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』(8~9ページ)をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

ご使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

カメラとの組み合わせについて

● EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるマクロストロボ撮影を行うことができます。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

● E-TTL II/E-TTL自動調光方式のカメラ（Aタイプカメラ）

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるマクロストロボ撮影を行うことができます。

● TTL自動調光方式のカメラ（Bタイプカメラ）

121ページを参照してください。

* 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

章目次

はじめに	2
1 撮影前の準備と マクロストロボ撮影 マクロストロボ撮影の準備と基本的な撮影方法	17
2 カメラ操作によるストロボの機能設定 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法	51
3 電波通信ワイヤレス増灯撮影 電波通信によるワイヤレス増灯撮影	57
4 光通信ワイヤレス増灯撮影 光通信によるワイヤレス増灯撮影	81
5 ストロボのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ	97
6 資料 システム図、よくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせ	107

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

- ◎ : 選択ダイヤルを示しています。
- ◎ : 選択/設定ボタンを示しています。
- ④ / ⑥ / ⑧ / ⑩ / ⑯ : 操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態が4秒／6秒／8秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。
- (p. * *) : 参照ページを示しています。
- !! : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
- 補足 : 補足説明や補足事項を記載しています。
- 応用 : ページタイトル右の **応用** は、カメラの撮影モードが **〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉** (応用撮影ゾーン) のときに機能することを示しています。

操作説明の前提について

- ストロボをカメラに取り付けた状態で、ともに電源が入っていることを前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- 機能を設定するときの選択操作は、〈◎〉を回して選ぶ操作を基本に説明しています。
- ファンクションボタン4の位置に 〈 ↺ 〉 が表示されているときは、〈 ↺ 〉 を押すと前の画面に戻ります。
- ストロボのカスタム機能／パーソナル機能、カメラのメニュー機能／カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 発光回数などの各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。
- マクロレンズの使用を前提に説明しています。

目 次

はじめに	2
章目次	3
本使用説明書の表記について	4
機能目次	7
安全上のご注意	8
各部の名称	10
1 撮影前の準備とマクロストロボ撮影	17
電池を入れる	18
制御部をカメラに取り付ける／取り外す	20
発光部をレンズに取り付ける／取り外す	21
発光部を調整する	22
電源を入れる	27
E-TTL: 全自動ストロボ撮影	30
撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影	32
調光運動範囲について	35
● ディフューザーアダプターを併用する	36
A:B 光量比を設定する	38
■ 調光補正	40
■ FEB	41
FEL : FE ロック	42
■ ハイスピードシンクロ	43
►► 後幕シンクロ	44
M : マニュアル発光	45
ストロボ設定初期化	49
2 カメラ操作によるストロボの機能設定	51
カメラのメニュー画面からのストロボ制御	52

3 電波通信ワイヤレス増灯撮影	57
(1) 電波通信ワイヤレス増灯撮影	58
電波通信ワイヤレス設定	64
ETTL: レシーバー C を追加した増灯撮影	69
ETTL: レシーバー A, B, C を追加した応用増灯撮影	74
M: 発光量を設定した増灯撮影	76
Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影	78
4 光通信ワイヤレス増灯撮影	81
↗ 光通信ワイヤレス増灯撮影	82
光通信ワイヤレス設定	85
ETTL: レシーバー C を追加した増灯撮影	88
ETTL: レシーバー A, B, C を追加した応用増灯撮影	92
M: 発光量を設定した増灯撮影	94
5 ストロボのカスタマイズ	97
C.Fn / P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法	98
C.Fn: カスタム機能で変更できる内容	101
P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容	104
6 資料	107
MT-26EX-RT のシステム	108
温度上昇による発光制限について	110
故障かな？と思ったら	112
主な仕様	116
B タイプカメラとの組み合わせ	121
電波通信ワイヤレス機能について	122
索引	125

機能目次

電源

- 電池 → p.18
- 発光間隔/回数 → p.18
- 電源ON/OFF → p.27
- 充電完了 → p.27
- クイック発光 → p.27
- オートパワーオフ → p.28
- FEロック → p.42
- ハイスピードシンクロ → p.43
- 後幕シンクロ → p.44
- 設定初期化 → p.49
- ストロボ機能設定 → p.51
- 発光制限 → p.110
- Bタイプカメラ → p.121

操作

- 取り付け/取り外し → p.20、
p.21
- ロック機能 → p.28
- 表示パネル照明 → p.29

電波通信ワイヤレス撮影

- リモートレリーズ → p.67
- メモリー機能 → p.68
- マニュアル発光 → p.76
- グループ発光 → p.78

通常撮影

- 全自動 (E-TTL) → p.30
- 撮影モード別自動調光 → p.32
- マニュアル発光 → p.45
- ストロボメータード
マニュアル → p.48

光通信ワイヤレス撮影

- メモリー機能 → p.87
- マニュアル発光 → p.94

カスタマイズ

- 一括解除 → p.100
- カスタム機能 (C.Fn) → p.101
- パーソナル機能 (P.Fn) → p.104

機能

- モデリング発光 → p.34
- ディフューザー^{アダプター} → p.36
- 調光補正 → p.40
- FEB → p.41

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。

お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です

● 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップやコードを首に巻き付けると、窒息することがあります。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

● 指定外の電源は使わない。
● 分解や改造をしない。
● 強い衝撃や振動を与えない。
● 破損したときは、内部に触れない。
● 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
● アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
● 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
● 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

● バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 ・ 指定外の製品で使わない。
 ・ 熱したり、火中投入しない。
 ・ 指定外の製品で充電しない。
 ・ 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 ・ 液漏れしたものは使わない。
 ・ 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。

液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

● 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。
- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となるので次のことはしない。
 - ・ 電池の十一を逆に入れること。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しない。
事故の原因となります。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しない。
火災、感電の原因になります。

⚠ 注意

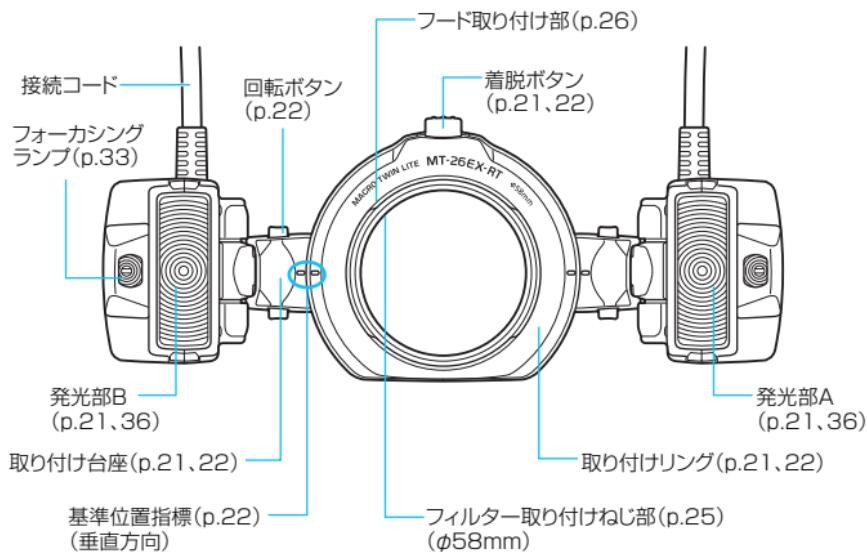
傷害を負う可能性がある内容です。

- ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。
- 長期間使用しないときは、電池を抜いて保管する。
故障、汚損の原因になることがあります。
- 連続発光後の電池交換は注意して行う。
電池が熱くなっていることがあり、やけどの原因となります。

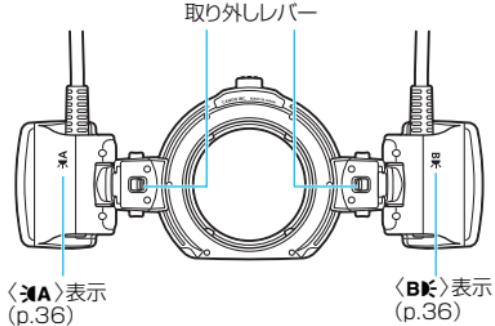
各部の名称

発光部

発光部



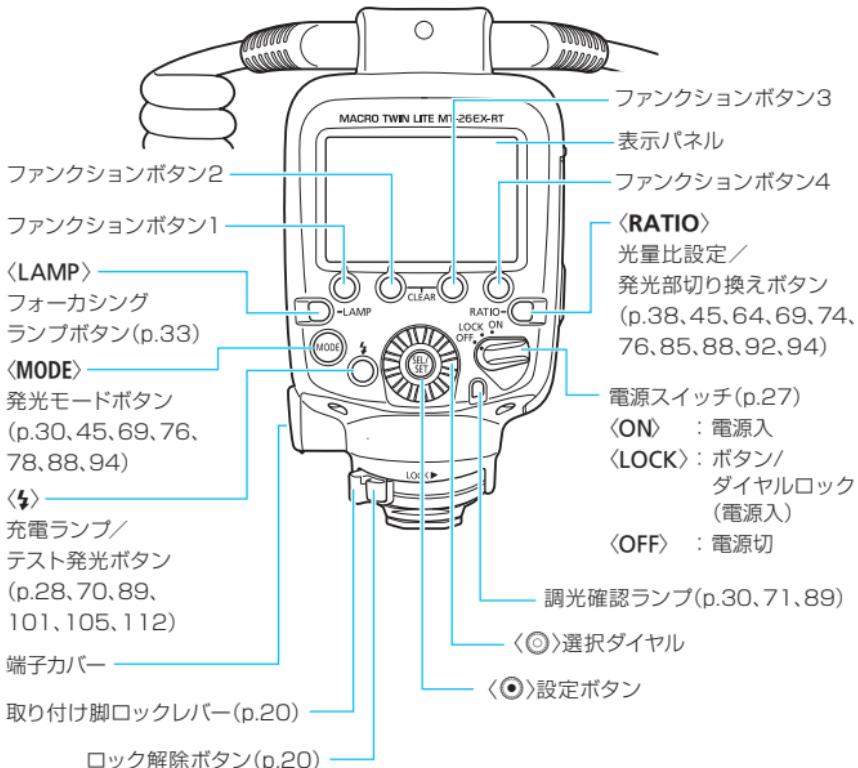
発光部背面



発光部側面/底面

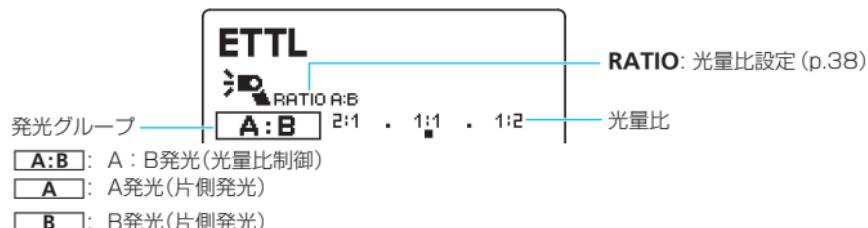
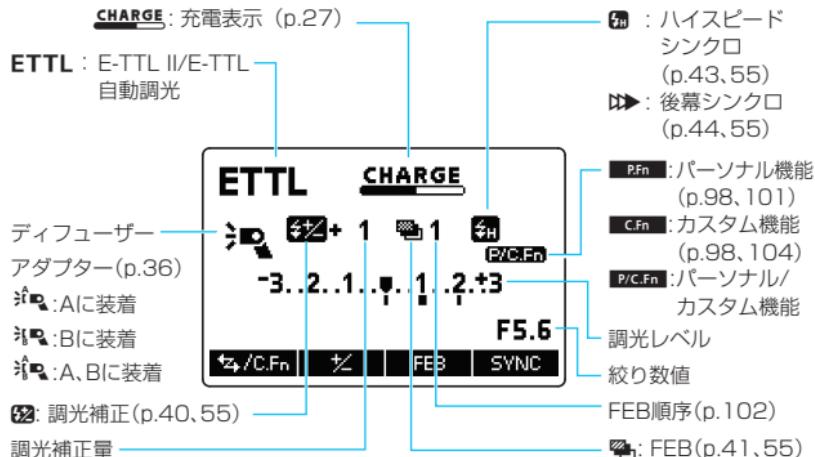


制御部

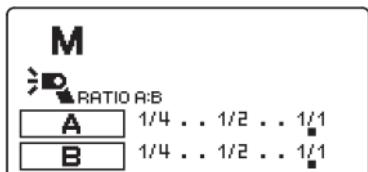


表示パネル

● E-TTL II/E-TTL自動調光 (p.30)



● マニュアル発光 (p.45)



- 画面は表示例です。状況に応じた部分のみ表示されます。
- ファンクションボタン1~4の上に表示される〈**Fn**〉〈**Fn**〉などは、設定状況に応じて表示が変わります。
 - ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (p.29)。

● 電波通信ワイヤレス増灯撮影 (p.57)

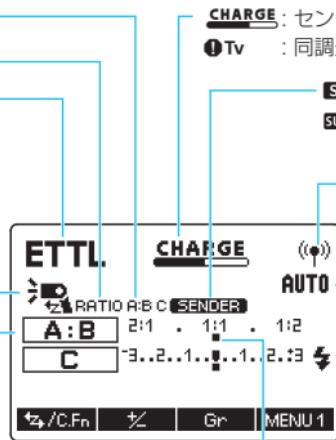
発光グループ制御

RATIO: 光量比制御

発光モード

ETTL: E-TTL II/E-TTL
自動調光**M:** マニュアル発光**Gr:** グループ発光**W:** ワイヤレス撮影
(センダー)

発光グループ

A:B: A:B 発光
(光量比制御)**A**: A 発光**B**: B 発光**C**: C 発光
(レシーバー C)**ALL**: ABC 発光**CHARGE**: センダー／レシーバー充電状態**TV**: 同調速度警告**SENDER**: センダー設定**SUB SENDER**: サブセンダー状態
(p.73)

(↑): 電波通信ワイヤレス

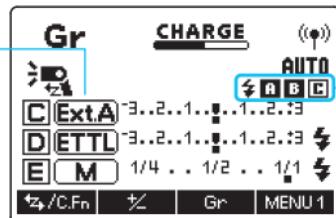
(↑): 未通信

(↑): 通信エラー

Ch: 通信チャンネル**AUTO**: 通信チャンネル
自動設定

↓: レシーバー充電完了

光量比

各グループ発光モード
(**Gr**のみ)発光グループ
充電状態(**Gr**のみ)**A**: 充電未完了
A: 充電完了

電波通信ワイヤレス増灯撮影時は、センダーとレシーバーの充電が完了すると
 <**CHARGE**> が消えます。なお、<**Gr**> 発光時は、すべてのストロボの充電が完了
 すると、「発光グループ充電状態」の表示も一緒に消えます。

● 光通信ワイヤレス増灯撮影 (p.81)

発光モード

ETTL: E-TTL II/E-TTL

自動調光

M: マニュアル発光

: ワイヤレス撮影
(センター)

発光グループ
A:B: A : B 発光
(光量比制御)

A: A 発光

B: B 発光

C: C 発光
(レシーバー C)

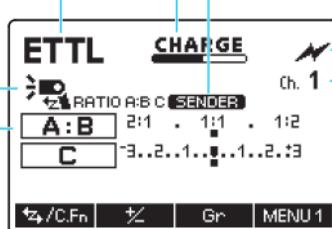
ALL: ABC 発光

CHARGE: 充電状態

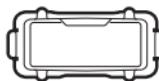
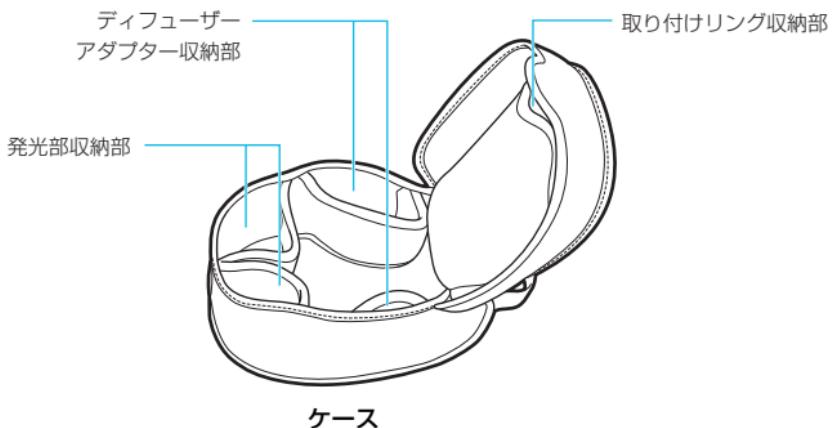
SENDER: センダー設定

: 光通信ワイヤレス

Ch : 通信チャンネル



付属アクセサリー



ディフューザーアダプター

SDA-E1

(p.36)

1

撮影前の準備と マクロストロボ撮影

この章では、マクロストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

① 連続発光に関するご注意

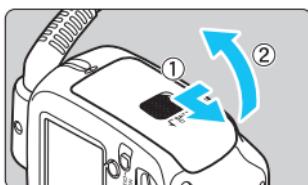
- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続発光は20回までにしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 48回連続発光したあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限中は、発光間隔が強制的に約8~20秒になります。そのときは25分以上休止してください。
- 詳しい内容については、110ページ『温度上昇による発光制限について』を参照してください。



近接撮影時は被写体条件が大きく露出に影響します。そのため、同じ被写体に対して露出を変えて撮影したり（p.40）、撮影後に露出を確認することをおすすめします。

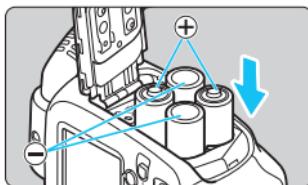
電池を入れる

単3形電池を4本使用します。



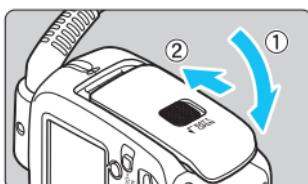
1 ふたを開ける

- 図のように、ロック解除レバーを左にスライドさせ、ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 電池室の側面の溝は、「-」を表しています。暗い場所で電池を交換するときに便利です。



3 ふたを閉める

- 電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。
- 「カチッ」と音がして、電池室ふたがロックされます。

発光間隔と発光回数

● MT-26EX-RT 単体

発光間隔		発光回数
クイック発光	通常発光	
約0.1~3.3秒	約0.1~5.5秒	約100~700回

- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、両側発光時、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です（p.27）。

⚠ 注意

- 「単3形リチウム電池」は使用しないでください。

一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になることがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用はお控えください。

- **連続発光を行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。**

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。

- **長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わないでください。**

熱いと感じなくとも、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

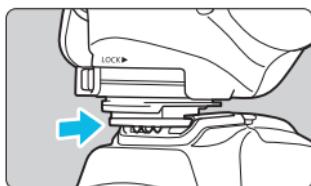


- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により接触不良を起こすことがあります。
- コンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売、p.109）使用時は、CP-E4N 使用説明書をあわせてお読みください。



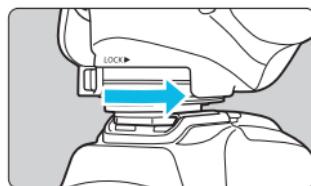
- <>が表示されたときや、充電中に表示パネルの表示が消えてしまうときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時にやってください。
- 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

制御部を取り付ける／取り外す ■



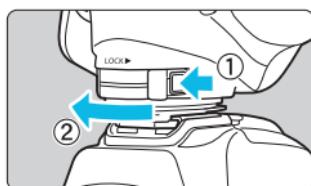
1 取り付ける

- 制御部の取り付け脚がアクセサリーシューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- 「カチッ」と音がしてロックされます。



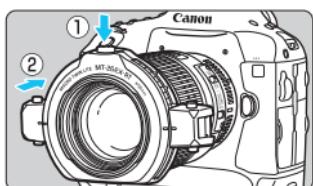
3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから取り外します。



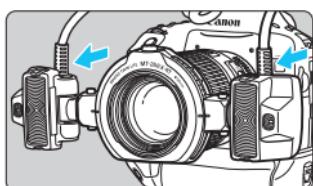
制御部の取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

発光部を取り付ける／取り外す



1 取り付けリングの着脱ボタンを押しながら、レンズの先端に取り付ける

- 着脱ボタンが真上になるようにします。
- 確実に取り付いていることを確認してください。
- 取り外すときは、着脱ボタンを押しながら取り外します。



2 発光部A、Bを取り付け台座に取り付ける

- 「カチッ」と音がするまで取り付け脚に押し込みます。
- 取り外しは、取り外しレバー (p.10) を押しながら取り外します。



- 発光部は必ずレンズに取り付けた状態で撮影してください。発光部を手に持ちながら撮影すると、低温やけどの原因になります。
- 連続発光やモデリング発光 (p.34) を行った直後は、発光部や電池に触れないでください。やけどの原因になります。発光部を取り外したり、電池を交換するときは、温度が低くなっていることを確認してから行ってください。
- 取り付けリングを回転させるときは、必ず着脱ボタンを押しながら回してください。
- EF180mm F3.5L マクロ USM 使用時、マクロライトアダプター 72C が、レンズのフィルター取り付け部に食い込んで外れなくなった場合は、着脱ボタンを押さずに取り付けリングをレンズに密着させながら、アダプターを外す方向に回してください。
- EF-M28mm F3.5 マクロ IS STM には装着できません。



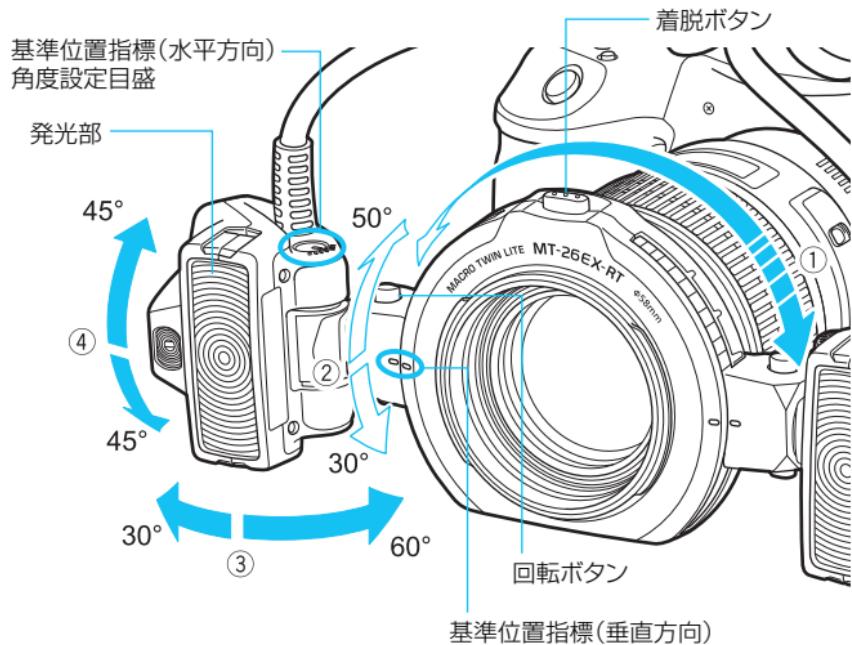
以下のレンズを使用するときは、レンズの先端（フィルター取り付けねじ部）にマクロライトアダプター（別売）を取り付けてから、発光部を取り付けてください。

- ・EF100mm F2.8L マクロ IS USM : マクロライトアダプター 67
- ・EF180mm F3.5L マクロ USM : マクロライトアダプター 72C

発光部を調整する

発光部の調整範囲

MT-26EX-RTは、使用するレンズ、被写体の位置などに応じて発光部を下図の範囲内で任意に設定することができます。



- ①取り付けリングを回転させるときは、着脱ボタンを押しながら回してください。
- ②取り付け台座を回転させるときは、回転ボタンを押しながら回してください。
- ③④の方向に発光部を回転させるときは、発光部を直接動かしてください。



- 発光部の角度設定範囲を超えて動かさないでください。発光部が取り付け台座から外れて脱落するおそれがあります。
- カメラとレンズの組み合わせによっては、発光部の設定範囲に制限を受ける場合があります。

調整の目安

マクロレンズ使用時の各撮影倍率における発光部設定角度の目安は次の通りです。発光部の側面にある角度設定目盛（15° 間隔）を利用して、発光部A、Bを同角度に設定してください。表内の角度は発光部基準位置指標（水平方向）から内側への設定角度です。

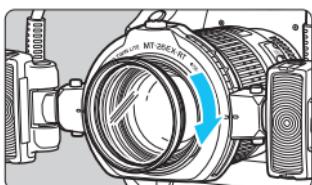
レンズ	撮影倍率	発光部内向き設定角度				
		60°	45°	30°	15°	0°
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ	1 : 2		●	●		
	1 : 2.5～1 : 3			●		
	1 : 4			●	●	
	1 : 5～1 : 6				●	
	1 : 8				●	●
	1 : 10					●
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ +ライフサイズ コンバーター EF	1 : 1		●			
	1 : 1.2		●	●		
	1 : 1.5～1 : 2			●		
	1 : 4				●	
EF100mm F2.8L マクロ IS USM EF100mm F2.8 マクロ USM	1 : 1～1 : 1.5		●	●		
	1 : 2			●	●	
	1 : 2.5～1 : 3				●	
	1 : 4					●
EF100mm F2.8 マクロ	1 : 1		●			
	1 : 1.5			●		
	1 : 2			●	●	
	1 : 2.5～1 : 3				●	
	1 : 4					●

発光部を調整する

レンズ	撮影倍率	発光部内向き設定角度				
		60°	45°	30°	15°	0°
EF180mm F3.5L マクロ USM	1 : 1			●	●	
	1 : 1.2~1 : 1.5				●	
	1 : 2~1 : 10					●
EF-S35mm F2.8 マクロ IS STM	1 : 1*	●				
	1 : 1.4	●				
	1 : 2	●				
	1 : 3.3		●	●		
EF-S60mm F2.8 マクロ USM	1 : 1		●	●		
	1 : 1.5			●		
	1 : 2		●	●		
	1 : 3				●	
	1 : 4					●
	1 : 5					●
	5×~2×	●				
MP-E65mm F2.8 1-5 × マクロフォト	1×		●			

* 最短撮影距離付近では、被写体の形状・大きさによっては、発光部が被写体と接触することがあります。また、フォーカシングランプの光が遮られることがあります。

フィルターの使用について



ストロボ撮影時に市販のフィルターを併用することができます。フィルターの装着方法は以下の2通りですが、使用するマクロレンズにより使用可否が異なります。

- ① 取り付けリングのフィルター取り付けねじ部に $\phi 58\text{mm}$ フィルターを取り付ける（上図）
- ② レンズの先端（フィルター取り付けねじ部）にフィルターを取り付けた状態で、発光部をレンズに取り付ける

マクロレンズ	フィルター使用可否	
	①	②
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ	使用不可 ^{*1}	使用可能
EF100mm F2.8 マクロ		使用不可
EF100mm F2.8 マクロ USM		制限あり ^{*2}
EF100mm F2.8L マクロ IS USM		制限あり ^{*3}
EF180mm F3.5L マクロ USM	使用可能	使用可能
EF-S35mm F2.8 マクロ IS STM		使用不可
EF-S60mm F2.8 マクロ USM		
MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト		

*1:レンズの先端とフィルターが接触してピント合わせができないため、またフィルターに傷が付いたり、レンズが故障する恐れがあるため、使用できません。

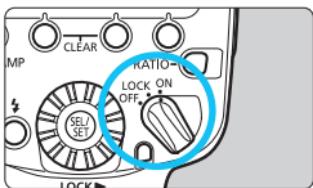
*2:レンズの先端にフィルターを取り付けてから、マクロライトアダプター（p.21）をフィルターの前面に取り付けます。フィルターの前面に取り付けねじ山がないときは、マクロライトアダプターの取り付けができないため、発光部を取り付けできません。なお、レンズの先端にフィルターとマクロライトアダプターを取り付けてから、取り付けリングを取り付けたときは、写真の周辺部分がケラレることができます。

*3:レンズの先端にレンズフード ES-27を取り付けてから、 $\phi 49\text{mm}$ フィルターを取り付けます。

フードの使用について

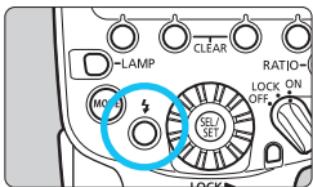
- MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォトに別売の専用フードを取り付ける場合、またはEF-S35mm F2.8 マクロ IS STM にレンズフード ES-27を取り付ける場合は、先にフードを取り付けたあとで、取り付けリングを付けてください。なお、フードを取り付けると、取り付けリングのフィルター取り付けねじ部にΦ58mmフィルターを付けることはできません。
- EF100mm F2.8 マクロ USM使用時は、取り付けリングのフード取り付け部にレンズフード ET-67を取り付けることができます。定常光撮影で使用してください。ストロボ撮影時はストロボ光がさえぎられます。

電源を入れる



1 電源スイッチを〈ON〉にする

- 充電が始まります。
- 充電中は表示パネルに〈CHARGE〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えます。



2 充電を確認する

- 充電ランプの状態が、消灯→緑色（クイック発光可能）→赤色（フル充電）の順に変わります。
- テスト発光ボタン（充電ランプ）を押すと、テスト発光を行うことができます。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態（フル充電前）でストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードの設定に関わらず機能します。発光量はフル発光時の約1/2～1/6になりますが、発光間隔を短くしたいとき有効です。

マニュアル発光時は、発光量が1/4以下に設定されているときに機能します。なお、FEBおよびワイヤレス増灯撮影時はクイック発光できません。



- 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになります。
- カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。



電波通信ワイヤレス増灯撮影時の〈CHARGE〉の表示については、72ページを参照してください。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

なお、電波通信ワイヤレス増灯撮影（p.58）では、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈**LOCKED**〉が表示されます。なお、ロック中はファンクションボタン1～4の上に表示される〈**Fn/C.Fn**〉〈〉などは表示されません。

表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが約12秒間照明されます（图12）。

通常のストロボ撮影、および電波通信／光通信ワイヤレス増灯撮影時（p.58／82）は、緑色に照明されます。

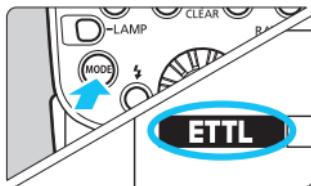
なお、電波通信ワイヤレス増灯撮影時の表示パネル照明については、72ページを参照してください。



- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。なお、電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切ってから電池を交換してください。
- 電源スイッチが〈LOCK〉の位置でもテスト発光やフォーカシングランプの点灯／消灯を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。
- クイック発光を禁止することができます（P.Fn-05／p.105）。
- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（C.Fn-01／p.101）。
- 外部電源使用時の充電方法を選ぶことができます（C.Fn-12／p.102）。
- 表示パネル照明の設定を変更することができます（C.Fn-22／p.103）。
- 表示パネル照明の色を変更することができます（P.Fn-04／p.104）。

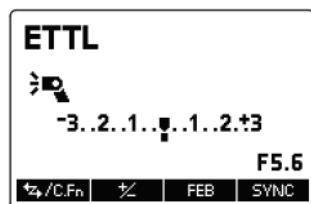
ETTL: 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または「全自動」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



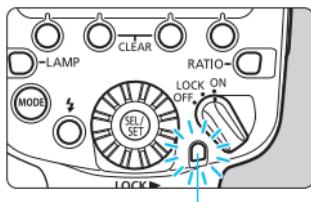
1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈○〉を回して〈ETTL〉を選び、〈○〉を押します。
- 〈SENDER〉が表示されていないことを確認します。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
→ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈〉が点灯していることを確認します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影が行われます。
→ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。

調光確認ランプ



- 調光確認ランプが点灯しなかったときや、撮影画像を確認して被写体が暗い（露出アンダーの）ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈**AE**〉〈**□**〉〈**CA**〉などの撮影モードのことです。
- E-TTL II対応のカメラに取り付けたときも、表示パネルには〈**ETTL**〉と表示されます。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)に設定するだけで、E-TTL II/E-TTL自動調光による本格的なマクロストロボ撮影を行うことができます。

Av	被写界深度を考慮しながら、主被写体だけでなく背景も標準露出にしたストロボ撮影ができます。 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となるスローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。 <ul style="list-style-type: none">● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、または露出オーバーになります。シャッター速度が点灯するように絞り数値を変更してください。
M	シャッター速度と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。 主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

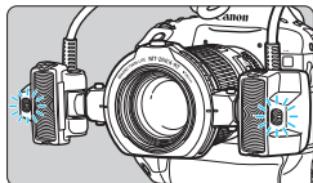
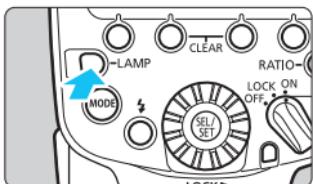
- 〈Tv〉(シャッター優先AE)で、任意のシャッター速度を設定すると、絞り数値が自動設定されます。ただし、絞り数値が任意に設定できないため、おすすめできません。
- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影したときは、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
P	自動設定 (1/X~1/60秒)	自動設定
Av	自動設定 (1/X~30秒)	手動設定
M	手動設定 (1/X~30秒、Bulb)	手動設定

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

フォーカシングランプについて



〈LAMP〉ボタンを押すと、フォーカシングランプが20秒間点灯し、ピント合わせがしやすくなります。もう一度押すと消灯します。

フォーカシングランプは、カメラのシャッターボタンを全押しすると自動的に消灯します。



- フォーカシングランプを近距離で直視すると、視力障害を起こす恐れがあります。
- フォーカシングランプが点灯した状態で撮影すると、露出アンダーになることがあります。必要に応じて露出補正、調光補正を行ってください。
- ストロボ発光禁止モードや動画撮影時など、ストロボが発光しない条件のときは、シャッターボタンを全押ししても、フォーカシングランプは自動的に消灯しません。



- フォーカシングランプの点灯方法を変更することができます (C.Fn-18 / p.103)。
- フォーカシングランプの明るさを調整することができます (P.Fn-01 / p.104)。
- フォーカシングランプの点灯時間を選ぶことができます (P.Fn-02 / p.104)。

モデリング発光について応用

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが1秒間連続発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。被写体の影の出かたや、ライティングのバランス確認に有効です。なお、電波通信ワイヤレス増灯撮影(p.58)および光通信ワイヤレス増灯撮影(p.82)のときもモデリング発光を行うことができます。

- ! ● 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は連続20回までにしてください。連続20回発光したときは、10分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、(カメラ側操作による)モデリング発光はできません。
- EOS M6、EOS M5、EOS M3、EOS M2、EOS M、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS Kiss Lite、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50と組み合わせたときは、(カメラ側操作による)モデリング発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して(p.101)、テスト発光ボタンでモデリング発光を行ってください(上記EOS Mシリーズ使用時は、カメラの測光タイマーが作動していないときに機能します)。

■ テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます(C.Fn-02/p.101)。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ光の色温度に応じてホワイトバランスを調整する機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉〈AWBw〉〈⚡〉のときに自動的に働きます。

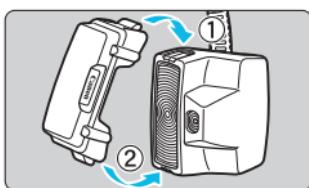
対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

調光運動範囲について

MT-26EX-RTの調光運動範囲は、発光部の設定位置により、その範囲が大きく異なります。

■ ディフューザーアダプターを併用する

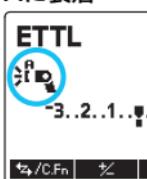
付属のディフューザーアダプターを発光部に装着して撮影すると、ストロボ光が広範囲に拡散されて和らぎ、被写体の影を抑えることができます。



ディフューザーアダプターを取り付ける

- 図のようにディフューザーアダプターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。ディフューザーアダプターは発光部A、Bどちらにも取り付けることができます。

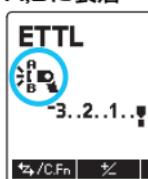
Aに装着



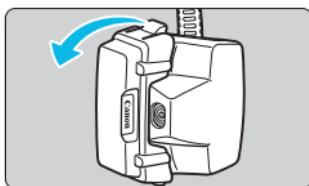
Bに装着



A,Bに装着



➡ ディフューザーアダプター取り付け時の表示になります。



- ディフューザーアダプターを取り外すときは、逆の手順でディフューザーアダプターの側面にある取り外し爪を浮かせて発光部から取り外します。



- ディフューザーアダプター装着時は、調光連動範囲が変わります。必要に応じてカメラのISO感度の調整や調光補正（p.40）を行ってください。
- ディフューザーアダプター装着時にクイック発光（p.27）を行うと、発光量が不足することがあるため、充電ランプが赤色になってから撮影することをおすすめします。
- 2004年までに発売されたEOSデジタルカメラを使用して、MT-26EX-RTにディフューザーアダプターを装着したときは、ホワイトバランスを〈AWB〉に設定してください。〈闪光〉の設定で撮影すると、適切なホワイトバランスが得られないことがあります。



撮影画像を確認して被写体が暗い（露出アンダーの）ときは、調光補正（p.40）を行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

A:B 光量比を設定する 応用

発光部A, Bの発光量の比率（光量比）を変化させたり、発光部A, Bのどちらか片側のみを発光させることで、被写体に陰影をつけた立体感のある写真を撮影することができます。設定できる光量比レベルは、1/2段ステップ・8:1～1:1～1:8（13段階）です。



A:B=1:1



A:B=4:1

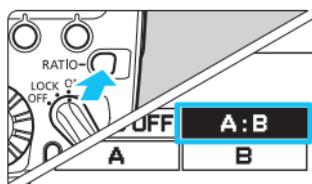


Aのみ発光



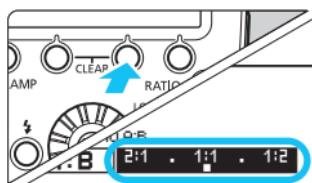
Bのみ発光

A:Bの光量比を設定した発光



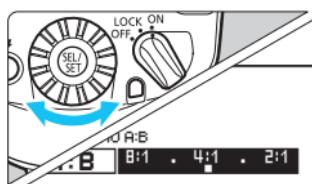
1 < A:B > に設定する

- < RATIO > ボタンを押します。
- < ○ > を回して < A:B > を選び、< ○ > を押します。



2 < Gr > ボタンを押す

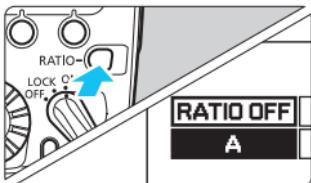
- ファンクションボタン3 < Gr > を押します。
- 光量比が反転します。



3 光量比を設定する

- < ○ > を回して A:B の光量比を設定し、< ○ > を押します。

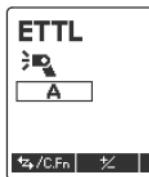
片側発光



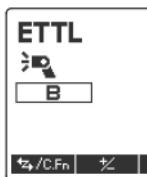
〈A〉または〈B〉に設定する

- 〈RATIO〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈A〉または〈B〉を選び、〈◎〉を押します。

Aのみ発光



Bのみ発光



次の機種では光量比制御はできません。同じ光量の両側発光、または片側発光での撮影になります。

EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50



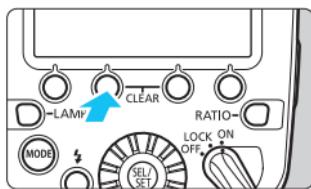
- 光量比の8:1～1:1～1:8は、段数換算で3:1～1:1～1:3(1/2段ステップ)に相当します。
- 光量比設定の詳細は、次のとおりです。

8:1 . 4:1 . 2:1 . 1:1 . 1:2 . 1:4 . 1:8
5:6:1 2.8:1 1.4:1 1:1.4 1:2.8 1:5.6

- 〈A:B〉〈A〉〈B〉が表示されていないときは、発光部A:Bが同じ光量で発光します。
- 発光モードが〈M〉のときは、45～47ページを参照してください。

調光補正 應用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。



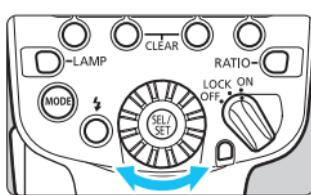
1 < > ボタンを押す

- ファンクションボタン2 <  > を押します。
- <  > を押して設定することもできます。
- ▶ <  > が表示され、補正量が反転します。



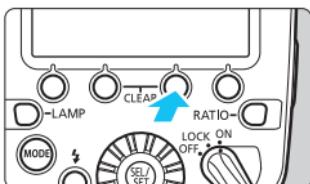
2 補正量を設定する

- <  > を回して補正量を設定し、<  > を押します。
- ▶ 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときは、補正量を「±0」に戻します。

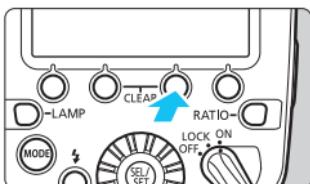


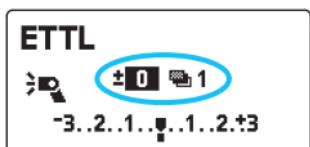
- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- ファンクションボタン2 <  > ボタンを押さずに、直接 <  > を回して調光補正量を設定することができます (C.Fn-13 / p.102)。

ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影といいます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。



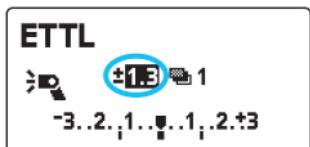
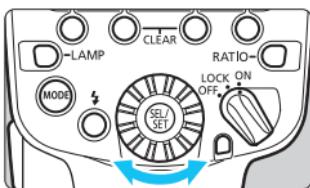
1 < FEB > ボタンを押す

- ファンクションボタン3 < FEB > を押します。
- <  > が表示され、FEBレベルの表示が反転します。



2 FEBレベルを設定する

- < ○ > を回して FEB レベルを設定し、< ● > を押します。
- FEBレベルが設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を併用したときは、設定した補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。±3段を超えるときは、調光レベルの端が < ◀ > または < ▶ > になります。

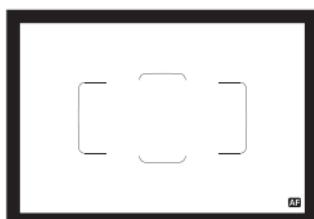


- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。ドライブモードが連続撮影のときは、3枚連続撮影して自動停止します。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて、FEB撮影を行うこともできます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます (C.Fn-03/p.101)。
- FEBの撮影順序を変更することができます (C.Fn-04/p.102)。

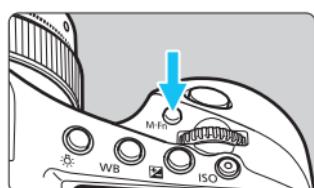
FEL: FE ロック応用

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに〈ETTL〉が表示されている状態で、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押します。〈M-Fn〉ボタンのないカメラは、〈＊〉(AEロック)または〈FEL〉ボタンを押します。



1 被写体にピントを合わせる



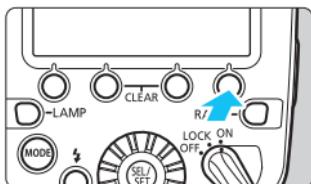
2 〈M-Fn〉ボタンを押す (※16)

- 被写体をファインダーの中央に置いてカメラの〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ▶ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な発光量が記憶されます。
- ▶ ファインダー内に「FEL」が約0.5秒間表示されます。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにプリ発光し、そのときに必要な発光量が記憶されます。

- !!
- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の〈＊〉が点滅します。被写体に近づくか絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げて再度FEロックを行うこともできます。
 - ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。
 - EOS Mシリーズは〈＊〉ボタンを押すと画面中央に調光範囲を示す円が表示されます（機種によっては〈＊＊〉も表示されます）。

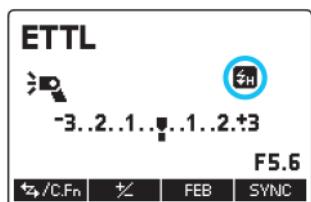
■ ハイスピードシンクロ応用

ハイスピードシンクロ機能を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影ができるようになります。日中の屋外などで、〈Av〉（絞り優先AE）モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときには有効です。



〈〉を表示させる

- ファンクションボタン4〈SYNC〉を押して、〈〉を表示させます。
- ファインダー内に〈〉が点灯していることを確認してから撮影します。



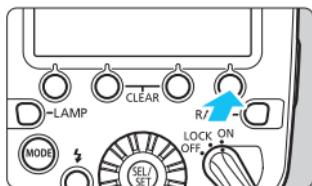
ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。



- シャッター速度がストロボ同調最高シャッター速度以下のときは、ファインダー内に〈〉は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4〈SYNC〉を押して〈〉の表示を消します。

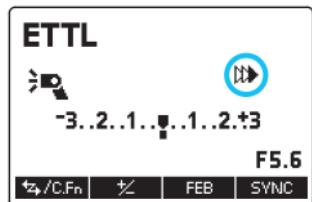
▶▶ 後幕シンクロ 応用

低速シャッターで後幕シンクロを行なうと、動いている被写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する（シャッターが閉じる）直前にストロボが発光します。



〈▶▶〉を表示させる

- ファンクションボタン4 〈SYNC〉を押して、〈▶▶〉を表示させます。



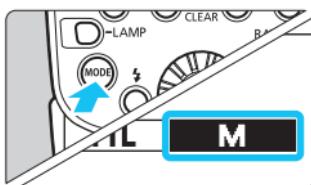
- カメラの撮影モードを〈bulb(B)〉（バルブ撮影）にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 発光モードが〈ETTL〉のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- ワイヤレス増灯撮影時は、後幕シンクロはできません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4 〈SYNC〉を押して〈▶▶〉の表示を消します。

M: マニュアル発光

フル発光（1/1）から1/512発光までの範囲で、発光量を1/3段ステップで設定することができます。「発光部A, Bとも同じ光量で発光」、「発光部AとBにそれぞれ発光量を設定して発光」、「片側（AまたはBのみ）発光」の3通りの方法で撮影することができます。

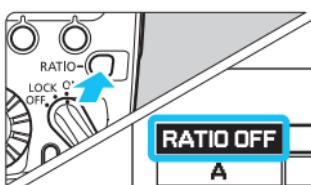
カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定することをおすすめします。また、あらかじめテスト撮影を行って露出を確認してください。

発光部A, Bとも同じ光量で発光



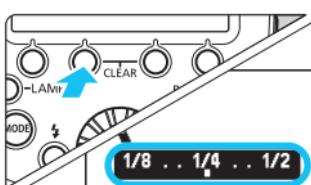
1 発光モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈M〉を選び、〈◎〉を押します。



2 〈RATIO〉表示を消す

- 〈RATIO〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈RATIO OFF〉を選び、〈◎〉を押します。



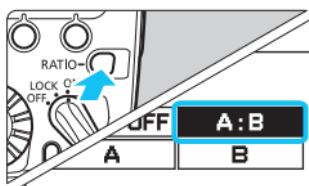
3 発光量を設定する

- ファンクションボタン2〈FUNC 2〉または〈◎〉を押します。
→ 発光量レベルが反転します。
- 〈◎〉を回して発光量を設定し、〈◎〉を押します。

- ハイスピードシンクロ設定時は、設定範囲が1/1～1/64になります。
- 発光量の設定が同じでも、両側発光時と片側発光時ではガイドナンバーが異なります（p.120）。

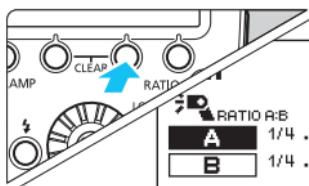
- ファンクションボタン2〈FUNC 2〉、または〈◎〉を押さずに、直接〈◎〉を回して発光量を設定することができます（C.Fn-13/p.102）。

発光部AとBにそれぞれ発光量を設定して発光



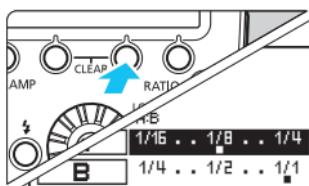
1 <■ A ■> <■ B ■> に設定する

- <■ RATIO ■> ボタンを押します。
- <(○)> を回して <■ A:B ■> を選び、<(○)> を押します。



2 発光部を選ぶ

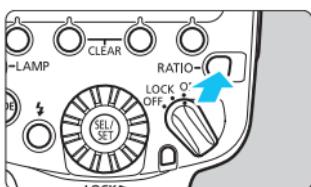
- ファンクションボタン3 <■ Gr ■> または <(○)> を押し、<(○)> を回して発光部AまたはBを選びます。



3 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 <■ * ■> または <(○)> を押します。
- <(○)> を回して発光量を設定し、<(○)> を押します。
- 手順2、3を繰り返して、発光部AとBの発光量を設定します。

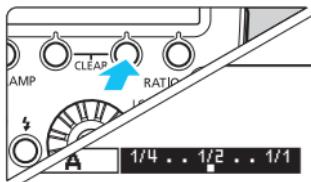
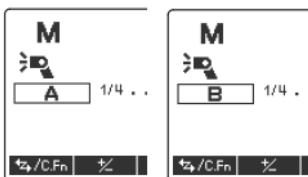
片側発光



1 <■ A > または <■ B > に設定する

- < RATIO > ボタンを押します。
- < ○ > を回して < ■ A > または < ■ B > を選び、< ○ > を押します。

Aのみ発光 Bのみ発光



2 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 < ■ > または < ○ > を押します。
- < ○ > を回して発光量を設定し、< ○ > を押します。

ストロボメータードマニュアル撮影

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

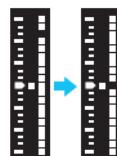
- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈＊〉〈FEL〉ボタンを押す（※16）

- ▶ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ▶ ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



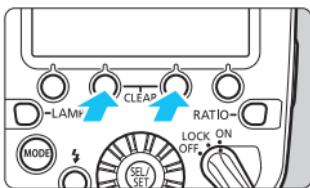
6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。

EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

ストロボ設定初期化 応用

ストロボの撮影機能やワイヤレス増灯撮影の設定を、初期状態に戻すことができます。



設定を初期化する

- <**CLEARED**> が表示されるまで、ファンクションボタン2と3を同時に長く押します。
- ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが<**ETTL**>になります。



設定初期化を行っても、ワイヤレス増灯撮影時の通信チャンネルと電波通信ID、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) の設定は解除されません。

2

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。



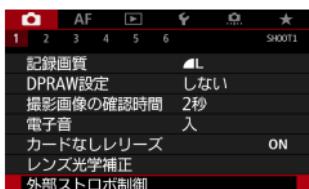
カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉（応用撮影ゾーン）にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定

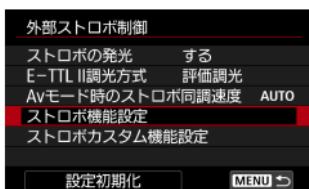


1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- 「外部ストロボ制御」または「ストロボ制御」を選びます。

2 [ストロボ機能設定] を選ぶ

- 「ストロボ機能設定」または「外部ストロボ機能設定」を選びます。
- ▶ 設定画面が表示されます。



3 機能を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- ワイヤレス機能を設定するときは、「ストロボカスタム機能設定」または「外部ストロボカスタム機能設定」のC.Fn-15で「1:レシーバーA, B, C」を選びます。
- 項目を選び、機能を設定します。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

● 2014年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラのストロボ機能設定画面から、「通常撮影」「光量比制御」「電波通信ワイヤレス増灯撮影」「光通信ワイヤレス増灯撮影」の設定を行うことができます。「電波通信ワイヤレス増灯撮影」および「光通信ワイヤレス増灯撮影」を設定するためには、C.Fn-15-1を設定してください。

* EOS Kiss X80/X70は2014年以降の発売ですが、設定できる内容は下記の「2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ」と同じです。

● 2012年～2013年までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D X、EOS 6D、EOS 5D Mark III、EOS 70D、EOS Kiss X7/X7i/X6i、EOS M2/M

カメラのストロボ機能設定画面から、「通常撮影」「電波通信ワイヤレス増灯撮影」「光通信ワイヤレス増灯撮影」の設定を行うことができます。「光通信ワイヤレス増灯撮影」を設定するためには、C.Fn-15-1を設定してください。なお、「光量比制御」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

カメラのストロボ機能設定画面から、「通常撮影」「光通信ワイヤレス増灯撮影」の設定を行うことができます。「光通信ワイヤレス増灯撮影」を設定するためには、C.Fn-15-1を設定してください。なお、「光量比制御」および「電波通信ワイヤレス増灯撮影」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラや発光モード、ワイヤレス機能の設定などにより、設定できる内容が異なります。
画面から設定できないときは、ストロボを操作して設定してください。

機能	
ストロボの発光	する／しない
E-TTL II調光方式	評価調光／平均調光
Avモード時のストロボ同調速度	
発光モード	E-TTL II（自動調光）／マニュアル発光
光量比制御	
シンクロ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ／ハイスピード
調光補正	
FEB	
ワイヤレス機能	ワイヤレス：OFF／電波通信／光通信
設定初期化	

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは【する】に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は標準的なストロボ露出が得られる【評価調光】に設定します。【平均調光】に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE〈Av〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影意図に応じて【E-TTL II】【マニュアル発光】を選択することができます。

● 光量比制御

発光部A, Bの光量比の調整や、片側のみの発光を行うことができます。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング／方式を【先幕シンクロ】【後幕シンクロ】【ハイスピード】の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは【先幕シンクロ】に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

● ワイヤレス機能

電波通信ワイヤレス増灯撮影、光通信ワイヤレス増灯撮影の設定を行うことができます。詳しくは、3章（p.57）、4章（p.81）を参照してください。

● 設定初期化

【ストロボ機能設定初期化】または【外部ストロボ設定初期化】を選ぶと、ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。



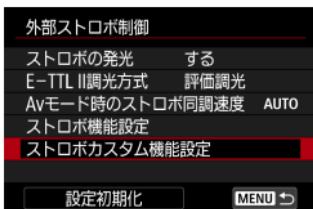
ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。



- 【ストロボの発光】【E-TTL II調光方式】は、52ページの手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- 【Avモード時のストロボ同調速度】が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。

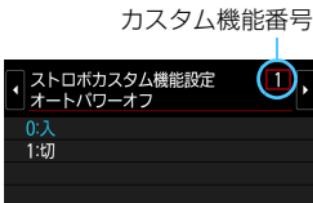
ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は、使用するカメラによって異なります。C.Fn-22が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、98~103ページを参照してください。



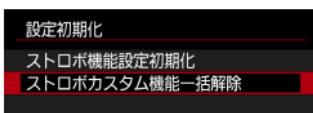
1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

- 「ストロボカスタム機能設定」または「外部ストロボカスタム機能設定」を選びます。
- ▶ ストロボのカスタム機能設定画面が表示されます。



2 カスタム機能を設定する

- カスタム機能番号を選びます。
- 項目を選び、機能を設定します。



- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で「設定初期化」を選んだあと、「ストロボカスタム機能一括解除」または「外部ストロボカスタム機能一括解除」を選びます。

- !**
- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、「ストロボカスタム機能一括解除」または「外部ストロボカスタム機能一括解除」を選んでも、C.Fn-22の設定は解除されません。100ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます。
 - パーソナル機能（P.Fn/p.104）は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

3

電波通信 ワイヤレス増灯撮影

この章では、「電波通信」ワイヤレスセンダー機能を使用した増灯撮影方法について説明しています。

電波通信ワイヤレス増灯撮影に必要なアクセサリーについては、システム図を参照してください（p.108）。

使用可能な地域と制限事項、および電波通信に関する注意事項については、122ページを参照してください。



- カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉（応用撮影ゾーン）にしてください。
- MT-26EX-RTは、電波通信による連動撮影を行うことはできません。



- カメラに取り付けたMT-26EX-RTを「センダー」、ワイヤレス制御されるスピードライトを「レシーバー」と呼んでいます。
- MT-26EX-RTは、レシーバーからのリモートトレリーズ（リモコン撮影）が可能ですが（p.67）。詳しくはリモートトレリーズ機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。

(1) 電波通信ワイヤレス増灯撮影

電波通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライトを使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス増灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

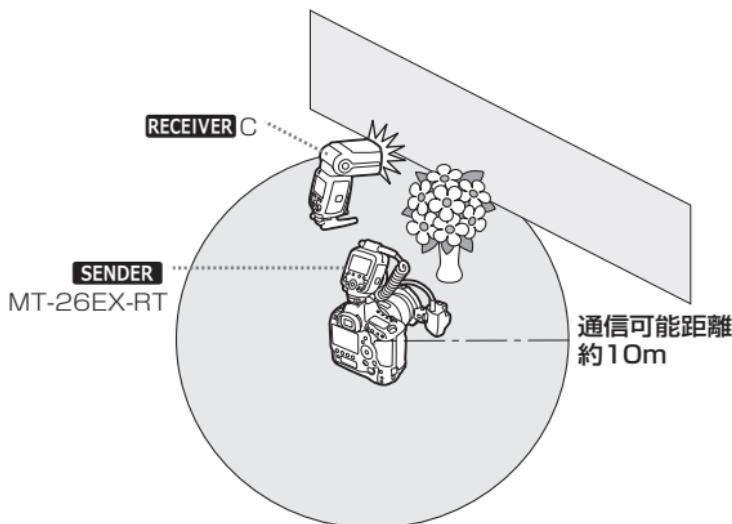
MT-26EX-RT（センダー）の設定内容が、ワイヤレス制御されるスピードライト（レシーバー）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません。

配置と作動範囲（ワイヤレス増灯撮影例）

● レシーバー Cを追加した増灯撮影 (p.69)

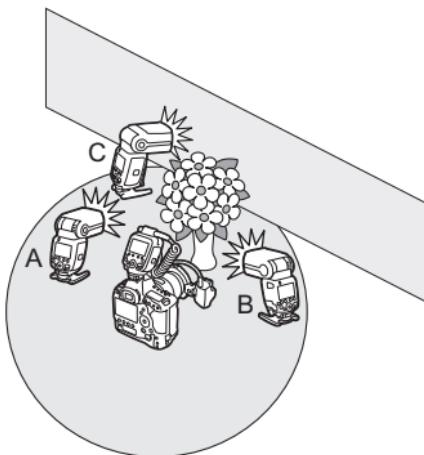
センダーの発光部A, Bに、発光グループCに設定したレシーバー（レシーバー C）を追加した増灯撮影を行うことができます。

レシーバー Cは、発光グループC単独で標準露出になるように自動制御されるため、被写体の影を消したり、アクセントライトとして使用します。



● レシーバー A, B, Cを追加した応用増灯撮影 (p.74)

レシーバー Cだけでなく、さらにレシーバー AとBを追加した増灯撮影ができます。レシーバー Aは発光部Aと、レシーバー Bは発光部Bとひとまとめのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。

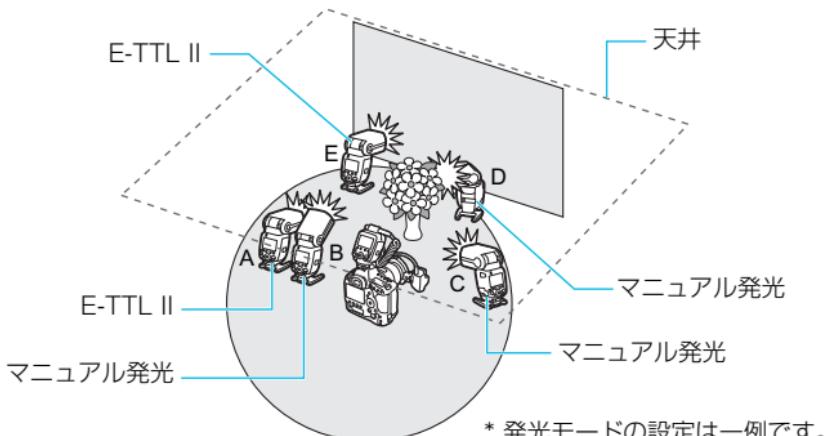


- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 撮影する前に、テスト発光（p.27）やテスト撮影を行ってください。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。



レシーバーストロボに付属しているミニスタンドを使用して配置します。

● グループごとに発光モードを設定した応用増灯撮影 (p.78)



* 発光モードの設定は一例です。

電波通信と光通信の違いについて

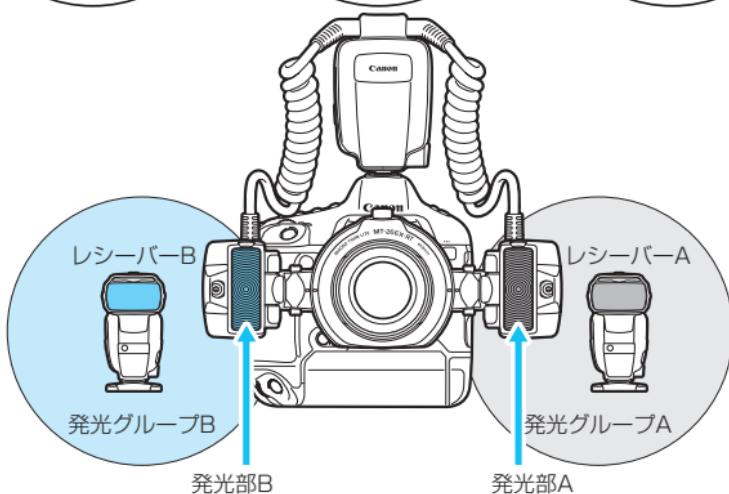
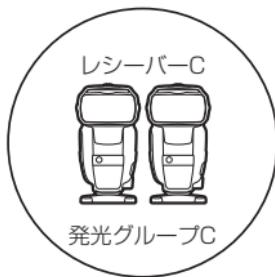
電波通信によるワイヤレス増灯撮影は、光通信によるワイヤレス増灯撮影に比べて、障害物の影響を受けにくく、レシーバーのワイヤレス受信部をセンターに向ける必要がないなどの利点があります。なお、機能面での主な違いは次のとおりです。

機能	電波通信	光通信
通信可能距離	約10m	約0.2~10m (屋内)
発光グループ制御	最大5グループ* (A, B, C, D, E)	最大3グループ (A, B, C)
レシーバー制御	最大15台	無制限
通信チャンネル	オート、Ch.1~15	Ch.1~4
電波通信ID	0000~9999	-

* 使用するカメラにより制限事項があります。62、78ページを参照してください。

グループ制御について

レシーバーAは発光部A、レシーバーBは発光部Bとひとまとめのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。レシーバーC、D、Eを複数台にすることもできます。なお、レシーバーは最大15台まで増やすことができます。



使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレス増灯撮影では、使用するカメラにより、機能が制限されることがあります。

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラと組み合わせたときは、発光モードやストロボ同調速度などの制限はありません。

* EOS Kiss X80/X70は2012年以降の発売ですが、機能制限の内容は2011年までに発売されたEOSデジタルカメラと同じです（下記参照）。

● 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ

下記のカメラと組み合わせたときは、電波通信ワイヤレスによるE-TTL自動調光撮影はできません。マニュアル発光（p.76）または光通信ワイヤレス増灯撮影（p.81）を行ってください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50

また、2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ、EOSフィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

① ストロボ同調最高シャッター速度が1段遅くなります。

使用するカメラのストロボ同調最高シャッター速度（ $X=1/\text{***秒}$ ）を確認して、ストロボ同調最高シャッター速度から1段遅いシャッター速度を上限にして撮影を行ってください（例： $X=1/250\text{秒}$ の場合、 $1/125\sim30\text{秒}$ の範囲で電波通信ワイヤレス増灯撮影が可能）。

シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度から1段遅くすると、〈①Tv〉による警告表示が消えます。

② ハイスピードシンクロ撮影はできません。

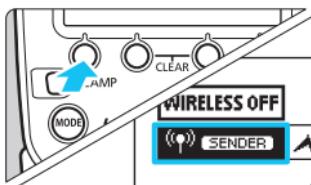
③ グループ発光 (p.78) はできません。



電波通信ワイヤレス設定

E-TTL II/E-TTL自動調光による電波通信ワイヤレス増灯撮影を行うときは、以下の手順でセンダーとレシーバーの設定を行います。

センダー設定



〈(P)〉と〈SENDER〉を表示させる

- ファンクションボタン1 〈 Fn/CFn 〉を押します。
- 〈◎〉を回して 〈(P) SENDER〉 を選び、
〈◎〉を押します。

- 〈RATIO〉ボタンを押して以下の中から発光方法を選びます (p.74)。
 - ・ 〈RATIO OFF〉と〈ALL〉
 - ・ 〈RATIO A:B〉と〈A:B〉
 - ・ 〈RATIO A:B C〉と〈A:B〉〈C〉

レシーバー設定

電波通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照して、レシーバーの発光グループ (A, B, C) を設定してください。

! 同じ場所に複数の電波通信ワイヤレスシステムを構築するときは、異なる通信チャンネルに設定していても混信することがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください (p.65)。

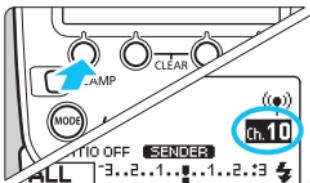
! 通常のストロボ撮影を行うときは、〈WIRELESS OFF〉を選んでセンダーの設定を解除してください。

通信チャンネル／電波通信IDの設定

以下の操作で、センターの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。
チャンネルとIDは、センターとレシーバーで同じ設定にします。なお、レシーバーの操作方法については、電波通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。

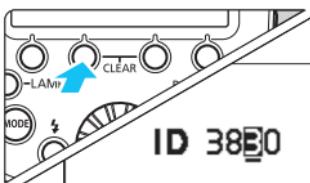
1 < MENU 3 > の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、< MENU 3 > の表示にします。



2 通信チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1 < CH > を押します。
- <○> を回して「AUTO」または Ch.1 ~15の中から選び、<○> を押します。



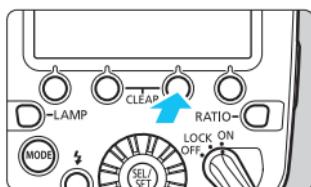
3 電波通信IDを設定する

- ファンクションボタン2 < ID > を押します。
- <○> を回して設定する位置（桁）を選び、<○> を押します。
- <○> を回して0~9の番号を選び、<○> を押します。
- 同じ操作で4桁の番号を設定します。
- 設定が終わったらファンクションボタン4 < □ > を押します。
- ➡ センターとレシーバーの通信状態は表示パネルのアイコンで確認することができます (p.67)。

● 通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、通信チャンネルを自動または手動で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして再設定することができます。

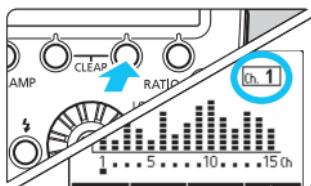
● 「AUTO」設定状態からスキャン



スキャンする

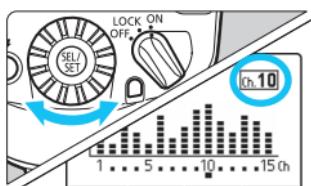
- ファンクションボタン4を押して、**〈MENU 3〉** の表示にします。
- ファンクションボタン3 **〈SCAN〉** を押します。
- ▶ スキャンが行われ、電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

● Ch.1～15設定状態からスキャン



1 スキャンする

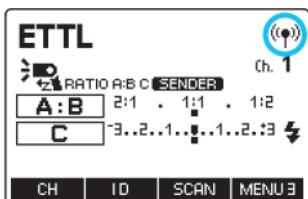
- ファンクションボタン4を押して、**〈MENU 3〉** の表示にします。
- ファンクションボタン3 **〈SCAN〉** を押します。
- ▶ スキャンが行われ、電波状態がグラフで表示されます。
- グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。



2 チャンネルを設定する

- **〈◎〉** を回して、Ch.1～15の中から選びます。
- **〈◎〉** を押すと、チャンネルが設定されます。

接続表示について



表示パネルのアイコンで通信状態を確認することができます。

表示	内容	対処方法
()	通信OK	—
()	未接続	チャンネル、IDを確認する
	台数超過	センダー+レシーバーを16台以下にする
	エラー	センダー、レシーバーの電源を入れ直す



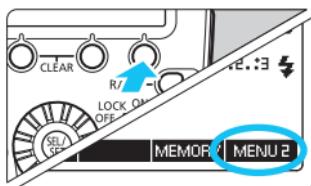
- センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。ともに「AUTO」に設定するか、同じ番号に設定してください。
- センダーとレシーバーの電波通信IDが異なると、レシーバーは発光しません。同じ番号に設定してください。



- レシーバーからのリモートリリーズ時は表示パネルに〈RELEASE〉が表示されます。

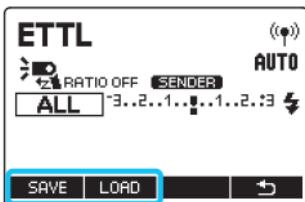
メモリー機能

ワイヤレス設定した内容を保存したり、呼び出すことができます。



1 <MEMORY> を表示させる

- ファンクションボタン4を押して、<MEMORY> の表示にします。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 <MEMORY> を押します。

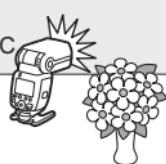
[保存]

- ファンクションボタン1 <SAVE> を押します。
 - ▶ 設定内容が保存（記憶）されます。

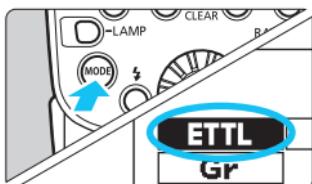
[呼び出し]

- ファンクションボタン2 <LOAD> を押します。
 - ▶ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: レシーバーCを追加した増灯撮影

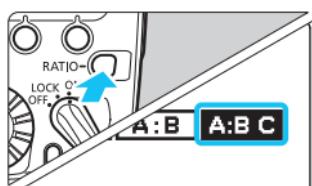


発光部A, BにレシーバーCを追加した増灯撮影です。



1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈ETTL〉を選び、〈◎〉を押します。



2 〈A:B〉, 〈C〉に設定する

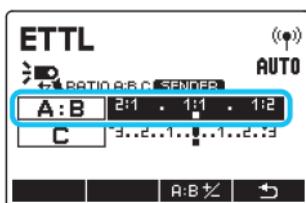
- 〈RATIO〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈A:B C〉を選び、〈◎〉を押します。

3 通信チャンネルと電波通信IDを確認する

- センダーとレシーバーのチャンネルが異なるときは、ともに「AUTO」に設定するか、同じ番号に設定します(p.65)。
- センダーとレシーバーの電波通信IDが異なるときは、同じ番号に設定します(p.65)。

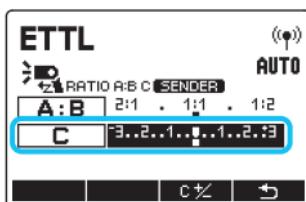
4 レシーバーCに設定して配置する

- レシーバーの発光グループをCに設定し、58ページに示した範囲内に配置します。



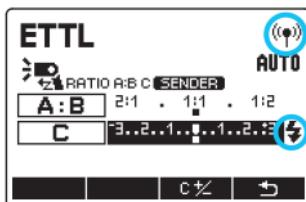
5 A : Bの光量比を設定する

- ファンクションボタン3 < Gr > を押し、<○>を回して< A:B > を選び、<○>を押します。
- <○> を回してA : Bの光量比を設定し、<○> を押します。



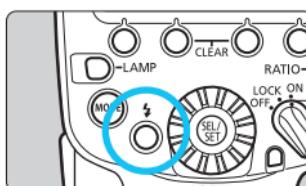
6 レシーバー C の調光補正量を設定する

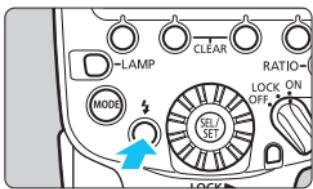
- <○> を回して < C > を選び、<○> を押します。
- <○> を回して補正量を設定し、<○> を押します。



7 通信状態と充電を確認する

- センダー表示パネルに < (P) > が表示されていないことを確認します。
- センダーの表示パネルに、レシーバーの充電完了を表す < ✓ > が点灯していること (< CHARGE > が表示されていないこと) を確認します。
- センダーの表示パネル照明については、72ページを参照してください。
- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。





8 作動を確認する

- センダーのテスト発光ボタンを押します。
- ➡ ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (p.58)。

9 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- ➡ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。



- 表示パネルに〈〉が表示されているときは、電波通信ができていない状態です。センダーとレシーバーの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、センダーとレシーバーの電源を入れ直してください。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。



- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.34)。
- センダー設定時は、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。ただし、カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。

表示パネル照明について

電波通信ワイヤレス増灯撮影時は、センダーとレシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センダーの表示パネル照明が点灯／消灯します。

センダーとレシーバーの充電が完了していないときは、センダーの表示パネル照明が点灯します。センダーとレシーバーの充電が完了すると、約12秒後に表示パネルが消灯します。

撮影を行いセンダーとレシーバーの充電が開始されると、センダーの表示パネル照明が再点灯します。

- 充電が完了していないセンダーやレシーバー（発光グループ）があるときは、センダーの表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されます。表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されていないことを確認してから撮影してください。

ワイヤレス機能を応用した増灯撮影

本ワイヤレスシステムでは、センダーで設定した以下の機能がレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、電波通信ワイヤレス増灯撮影を行うことができます。

- ・ストロボ調光補正
(/ p.40)
- ・FEB (/ p.41)
- ・FEロック (p.42)
- ・ハイスピードシンクロ
(/ p.43)
- ・マニュアル発光 (p.45、76)

センダーストロボについて

センダーを2台以上にすることができます。センダーを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（レシーバー）のまま、カメラを替えてワイヤレス増灯撮影を行うことができます。

なお、センダーを2台以上にしたときは、センダー設定を行った順に表示パネルの表示が変わります。センダー1台目（メインセンダー）は〈SENDER〉、センダー2台目以降（サブセンダー）は〈SUB SENDER〉が表示されます。

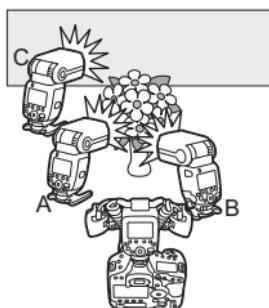


- 表示パネルに〈〉が表示されるとときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、センダーの電源を一台づつ入れ直してください。
- 電波通信ワイヤレス増灯撮影時は、センダーとレシーバーを合わせて16台以下にしてください。



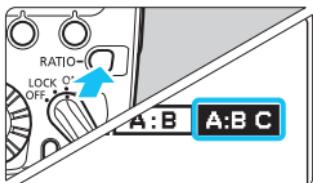
- 〈SYNC〉〈FEB〉は、ファンクションボタン4〈MENU*〉を押すと表示されます。
- センダーストロボがサブセンダーの状態でも撮影することができます。

ETTL: レシーバー A, B, Cを追加した応用増灯撮影 ■



レシーバー Cだけでなく、レシーバー A, Bを追加した増灯撮影を行うことができます。発光制御の概要については、61ページの『グループ制御について』を参照してください。

また、レシーバーの発光グループの設定に関係なく、発光部 A, Bとレシーバーと同じ光量で発光させる増灯撮影や、レシーバー A, Bだけを追加した増灯撮影を行うこともできます。



1 <■ A:B ■> <■ C ■> に設定する

- <RATIO> ボタンを押します。
- <○> を回して <■ A:B ■> を選び、<○> を押します。

2 レシーバー A, B, Cに設定して配置する

- すべてのレシーバーがセンダーと同じ通信チャンネルと電波通信IDに設定されているか確認してください。
- 追加するレシーバーをそれぞれ A, B, C に設定し、配置します。

3 撮影する

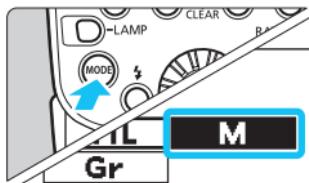
- 『レシーバー C を追加した増灯撮影』を参照し (p.69)、発光グループ (発光部 + レシーバー) A : B の光量比と、レシーバー C の調光補正量を設定して撮影します。



- 発光部 A, B とレシーバーを同じ光量で発光させるときは、手順 1 で < [ALL] > に設定します。レシーバーの発光グループの設定は A, B, C のどれでも構いません。
- レシーバー A, B だけを追加するときは、手順 1 で < [A:B] > に設定します。

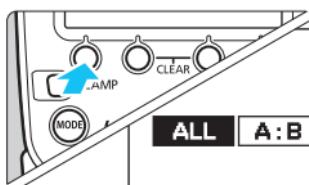
M: 発光量を設定した増灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス増灯撮影です。発光グループごとにフル発光（1/1）から1/128発光までの範囲で、発光量を1/3段ステップで設定して撮影することができます。設定はすべてセンダー側で行います。



1 発光モードを〈M〉にする

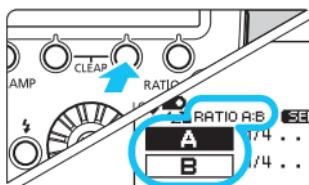
- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈M〉を選び、〈◎〉を押します。



2 発光グループを設定する

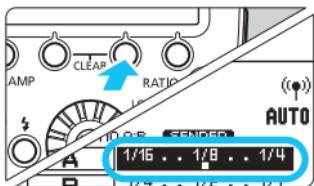
- 〈RATIO〉ボタンを押します。

- 〈◎〉を回して以下の中から発光方法を選びます。レシーバーA, B, Cを追加したワイヤレス増灯撮影を行うことができます。
 - ・すべてのレシーバーが同じ発光量：〈ALL〉
 - ・レシーバーA, Bに対して発光量を設定：〈A B〉
 - ・レシーバーA, B, Cに対して発光量を設定：〈ABC〉



3 発光グループを選ぶ

- 手順2で〈A B〉または〈ABC〉を選んだときは、ファンクションボタン3〈Gr〉または〈◎〉を押し、〈◎〉を回して発光量を設定するグループを選びます。



4 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 < ***±** > または < **◎** > を押します。
- < **◎** > を回して発光量を設定し、< **◎** > を押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

5 撮影する

- 各グループが設定した発光量で発光します。

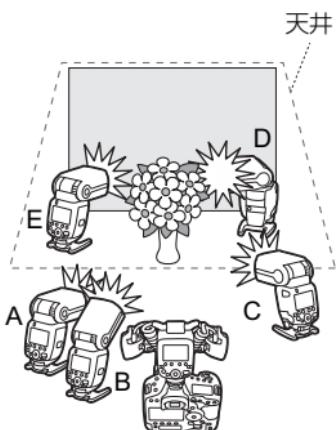


ハイスピードシンクロ設定時は、設定範囲が1/1～1/64になります。



- < **[ALL]** > 設定時は、レシーバーの発光グループをA, B, Cのいずれかに設定してください。D, Eに設定すると発光しません。
- 複数のレシーバーを同じ発光量で発光させるときは、手順2で < **[ALL]** > を選びます。

Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影

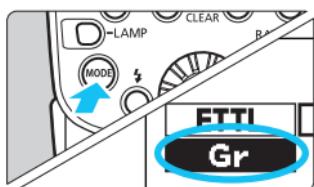


2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ(A, B, C, D, E)までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

設定できる発光モードは、①E-TTL II/E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。

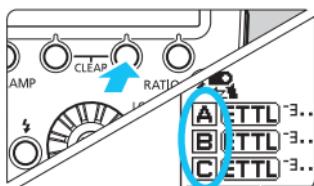
この機能は、ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、〈Gr〉の発光モードでワイヤレス増灯撮影を行うことはできません。最大3グループ(A, B, C)での撮影になります(p.74)。



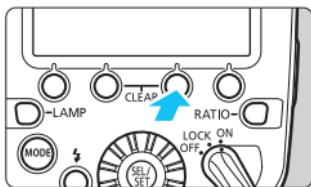
1 発光モードを〈Gr〉にする

- センダーの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈Gr〉を選び、〈◎〉を押します。
- レシーバーはセンダーからの制御により、撮影時に発光モードが自動設定されます。



2 レシーバーの発光グループを設定する

- すべてのレシーバーに発光グループ(A, B, C, D, E)を設定します。



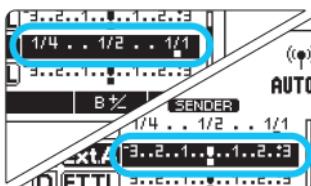
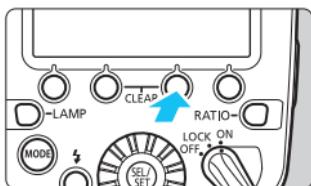
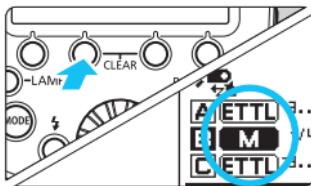
3

各発光グループの設定を行う

- センダーを操作して、各発光グループの発光モードを設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン3 〈Gr〉を押します(12)。
- 〈◎〉を回して発光グループを選びます。

発光モードの設定

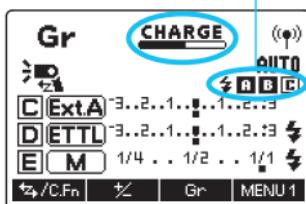
- ファンクションボタン2 〈* MODE〉を押して、〈ETTL〉〈M〉〈Ext.A〉の中から発光モードを選びます。



発光量／調光補正量の設定

- ファンクションボタン3 〈*%〉を押します。
- 〈◎〉を回して発光量または調光補正量を設定し、〈◎〉を押します。
- 〈M〉のときは発光量を設定します。〈ETTL〉〈Ext.A〉のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- 手順3を繰り返して、すべての発光グループの発光機能を設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン2 〈%〉を押すと、発光グループ全体の調光補正を行なうことができます。

発光グループ充電状態



4 充電を確認して撮影する

- <**CHARGE**>が表示されているときは、左図の表示で充電が完了していない発光グループを確認することができます。例えば発光グループ<**A**>の充電が完了したときは、左図の<**A**>の表示が<**A**>に変わります。
- すべての発光グループの充電が完了すると、<**CHARGE**>と左図の発光グループの充電状態の表示が消えます。
- その他の充電確認については、70ページの手順7を参照してください。
- ▶ 各レシーバーが設定したそれぞれの発光モードで同時に発光します。

- !**
- <**A**>または<**B**>を<**Ext.A**>に設定すると、MT-26EX-RTの<**A**>または<**B**>の発光は行われません。

● 発光モードを<**Ext.A**>に設定するときは、レシーバーが外部調光オートに対応しているストロボかどうかを確認してください。対応していないときは発光しません。

● 発光モードが<**ETTL**><**Ext.A**>のときは、1つの発光グループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。

-
- <**Ext.A**>については、外部調光オートに対応したストロボの使用説明書を参照してください。
 - 発光させるグループは、A, C, Eのように連続していなくても構いません。
 - 発光させたくないグループがあるときは、手順3で発光モードを設定するときに、ファンクションボタン1 <**ON/OFF**> を押して、<**OFF**>に設定します。

4

光通信 ワイヤレス増灯撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスセンダー機能を使用した増灯撮影方法について説明しています。

光通信ワイヤレス増灯撮影に必要なアクセサリーについては、システム図を参照してください (p.108)。



カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉(応用撮影ゾーン)にしてください。



カメラに取り付けたMT-26EX-RTを「センダー」、ワイヤレス制御されるスピードライトを「レシーバー」と呼んでいます。

光通信ワイヤレス増灯撮影

光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（レシーバー）を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス増灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

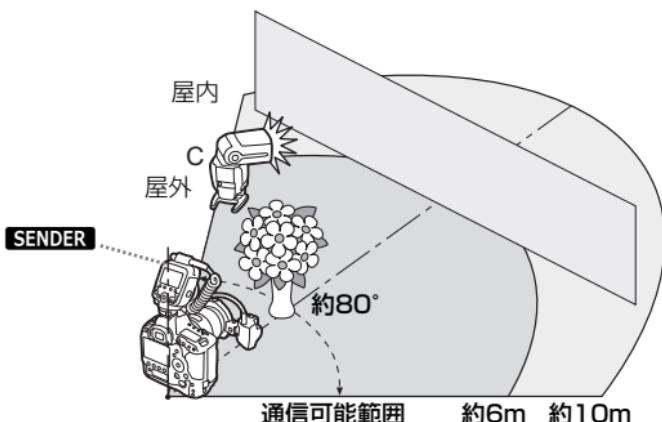
MT-26EX-RT（センダー）の設定内容が、ワイヤレス制御されるスピードライト（レシーバー）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません。

配置と作動範囲（ワイヤレス増灯撮影例）

● レシーバー Cを追加した増灯撮影 (p.88)

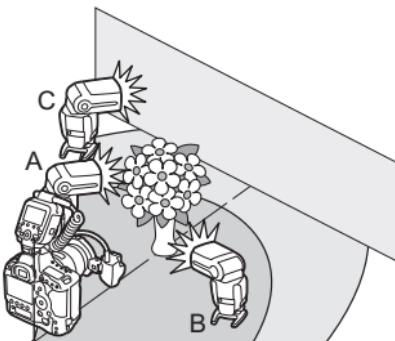
センダーの発光部A, Bに、発光グループCに設定したレシーバー（レシーバーC）を追加した増灯撮影を行うことができます。

レシーバーCは、発光グループC単独で標準露出になるように自動制御されるため、被写体の影を消したり、アクセントライトとして使用します。



● レシーバー A, B, Cを追加した応用増灯撮影 (p.92)

レシーバー Cだけでなく、さらにレシーバー AとBを追加した増灯撮影ができます。レシーバー Aは発光部Aと、レシーバー Bは発光部Bとひとまとめのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。



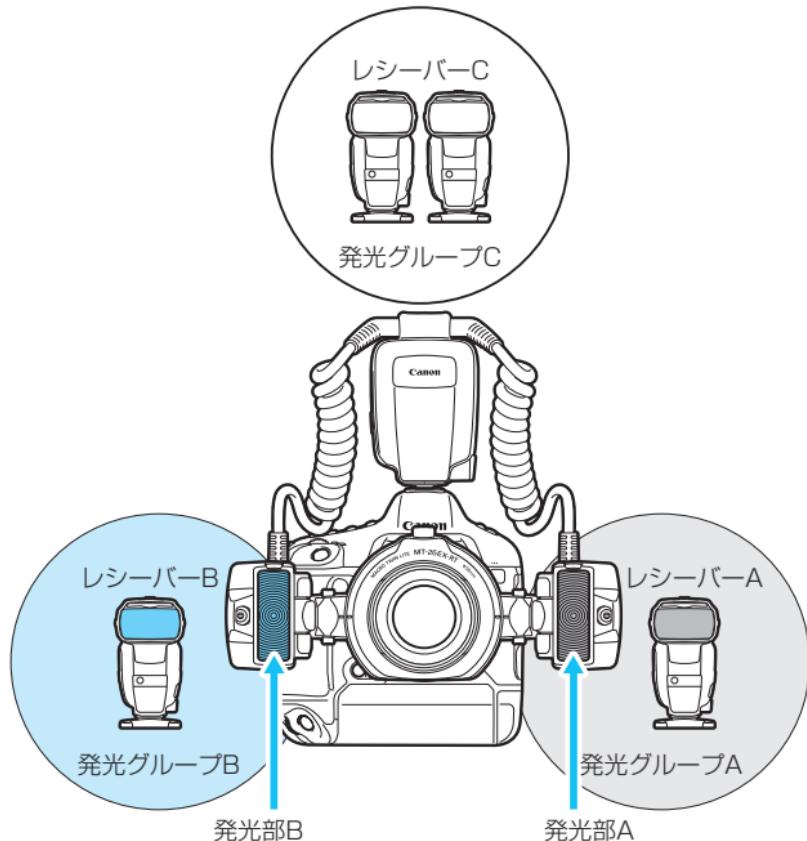
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 撮影する前に、テスト発光（p.27）やテスト撮影を行ってください。
- 通信の妨げになるため、センダーとレシーバーの間に障害物を置かないでください。



- レシーバーストロボに付属しているミニスタンドを使用して、レシーバーの受信部をセンダーに向けて配置します。
- 室内で撮影するときは、通信が壁面反射することにより、多少ラフな配置でも作動することがあります。

グループ制御について

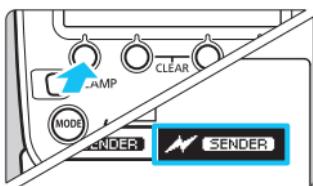
レシーバーAは発光部A、レシーバーBは発光部Bとひとまとめのグループ（1つのストロボ）として制御されて発光します。レシーバーCを複数台にすることもできます。なお、増灯するレシーバーA、B、Cに台数制限はありません。



光通信ワイヤレス設定

E-TTL II/E-TTL自動調光による光通信ワイヤレス増灯撮影を行うときは、以下の手順でセンダーとレシーバーの設定を行います。

センダー設定



〈〉と〈SENDER〉を表示させる

- ファンクションボタン1 〈C.Fn〉を押します。
- 〈◎〉を回して 〈 SENDER〉 選び、
〈◎〉を押します。

- 〈RATIO〉ボタンを押して以下の中から発光方法を選びます (p.92)。

- 〈RATIO OFF〉と〈ALL〉
- 〈RATIO A:B〉と〈A:B〉
- 〈RATIO A:B C〉と〈A:B〉〈C〉

レシーバー設定

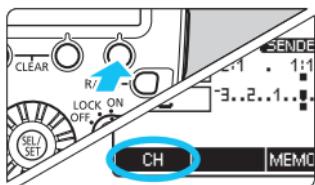
光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照して、レシーバーの発光グループ (A, B, C) を設定してください。



通常のストロボ撮影を行うときは、〈WIRELESS OFF〉を選んでセンダーの設定を解除してください。

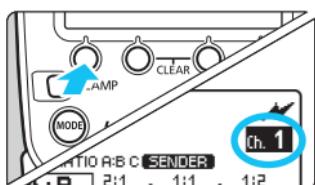
通信チャンネルの設定

以下の操作で、センターの通信チャンネルを設定します。チャンネルは、センターとレシーバーで同じ設定にします。なお、レシーバーの操作方法については、光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライトの使用説明書を参照してください。



1 < MENU 2 > の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、< MENU 2 > の表示にします。



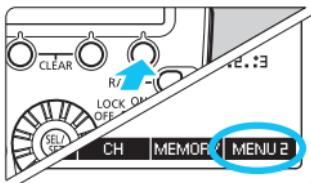
2 通信チャンネルを設定する

- ファンクションボタン2 < CH > を押します。
- <○> を回してCh.1～4の中から選び、<●> を押します。

! センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しません。ともに同じ番号に設定してください。

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容を保存したり、呼び出すことができます。



1 <MEMORY> を表示させる

- ファンクションボタン4を押して、<MEMORY>の表示にします。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 <MEMORY> を押します。

[保存]

- ファンクションボタン1 <SAVE> を押します。
→ 設定内容が保存（記憶）されます。

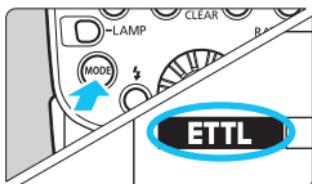
[呼び出し]

- ファンクションボタン2 <LOAD> を押します。
→ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: レシーバーCを追加した増灯撮影 ■

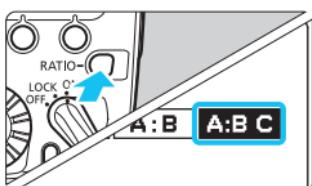


発光部A, BにレシーバーCを追加した増灯撮影です。



1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈ETTL〉を選び、〈◎〉を押します。



2 〈A:B〉〈C〉に設定する

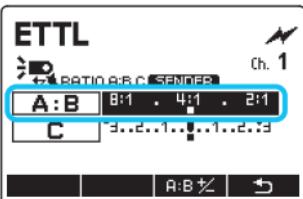
- 〈RATIO〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈A:B C〉を選び、〈◎〉を押します。

3 通信チャンネルを確認する

- センダーとレシーバーのチャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します(p.86)。

4 レシーバーCに設定して配置する

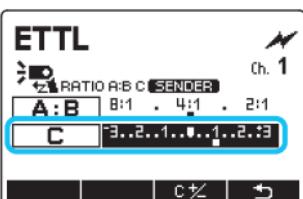
- レシーバーの発光グループをCに設定し、82ページに示した範囲内に配置します。



5

A : B の光量比を設定する

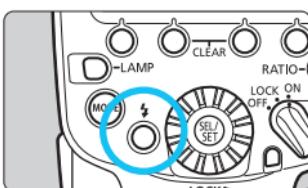
- ファンクションボタン3 <Gr> を押し、<○>を回して<A:B>を選び、<○>を押します。
- <○>を回してA : Bの光量比を設定し、<○>を押します。



6

レシーバー C の調光補正量を設定する

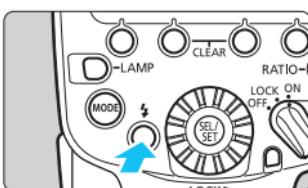
- <○>を回して<C>を選び、<○>を押します。
- <○>を回して補正量を設定し、<○>を押します。



7

充電を確認する

- センダーの充電ランプが点灯していることを確認します。
- レシーバーの充電が完了していることを確認します。



8

作動確認をする

- センダーのテスト発光ボタンを押します。
 - レシーバー C が発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか確認してください。

9

撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
 - 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。



- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになります。
- 次の機種では、〈ETTL〉モード設定時にレシーバー Cを追加したワイヤレス増灯撮影はできません。なお、〈M〉モード設定時は、すべてのAタイプカメラ (p.2) でワイヤレス増灯撮影を行うことができます。
EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50
- レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレシーバーが誤動作して、意図せずに発光することがあります。



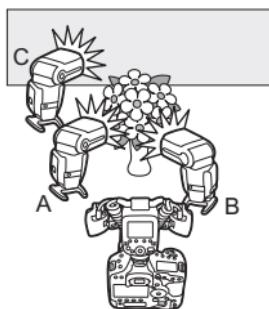
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.34)。
- レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。ただし、カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。

ワイヤレス機能を応用した増灯撮影

本ワイヤレスシステムでは、センダーで設定した以下の機能がレシーバーに自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、光通信ワイヤレス増灯撮影を行うことができます。

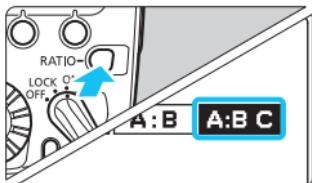
- ・ストロボ調光補正
( / p.40)
- ・FEB ( / p.41)
- ・FE ロック (p.42)
- ・ハイスピードシンクロ
( / p.43)
- ・マニュアル発光 (p.45、94)

ETTL: レシーバー A, B, Cを追加した応用増灯撮影 ■



レシーバー Cだけでなく、レシーバー A, Bを追加した増灯撮影を行うことができます。発光制御の概要については、84ページの『グループ制御について』を参照してください。

また、レシーバーの発光グループの設定に関係なく、発光部A, Bとレシーバーと同じ光量で発光させる増灯撮影や、レシーバー A, Bだけを追加した増灯撮影を行うこともできます。



1 < A:B > < C > に設定する

- < RATIO > ボタンを押します。
- < ○ > を回して < A:B C > を選び、< ○ > を押します。

2 レシーバー A, B, Cに設定して配置する

- すべてのレシーバーがセンダーと同じ通信チャンネルに設定されているか確認してください。
- 追加するレシーバーをそれぞれ A, B, C に設定し配置します。

3 撮影する

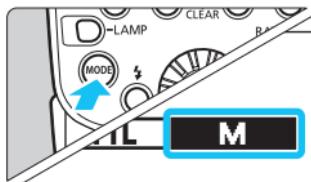
- 『レシーバー Cを追加した増灯撮影』を参照し (p.88)、発光グループ (発光部+レシーバー) A : Bの光量比と、レシーバー Cの調光補正量を設定して撮影します。



- 発光部A, Bとレシーバーと同じ光量で発光させるときは、手順1で〈**ALL**〉に設定します。レシーバーの発光グループの設定はA, B, Cのどれでも構いません。
- レシーバー A, Bだけを追加するときは、手順1で〈**A:B**〉に設定します。

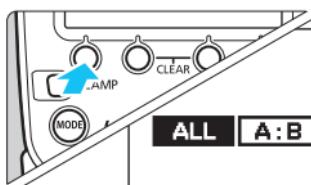
M: 発光量を設定した増灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス増灯撮影です。発光グループごとにフル発光（1/1）から1/128発光までの範囲で、発光量を1/3段ステップで設定して撮影することができます。設定はすべてセンダー側で行います。



1 発光モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して〈M〉を選び、〈◎〉を押します。

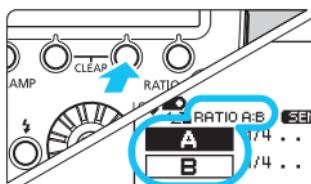


2 発光グループを設定する

- 〈RATIO〉ボタンを押します。

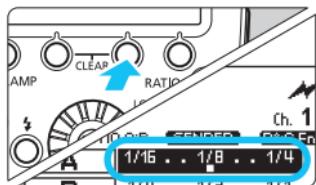
- 〈◎〉を回して以下の中から発光方法を選びます。レシーバーA, B, Cを追加したワイヤレス増灯撮影を行うことができます。

- ・すべてのレシーバーが同じ発光量：〈ALL〉
- ・レシーバー A, Bに対して発光量を設定：〈A B〉
- ・レシーバー A, B, Cに対して発光量を設定：〈ABC〉



3 発光グループを選ぶ

- 手順2で〈A B〉または〈ABC〉を選んだときは、ファンクションボタン3〈Gr〉または〈◎〉を押し、〈◎〉を回して発光量を設定するグループを選びます。



4 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 < ***2** > または < **◎** > を押します。
- < **◎** > を回して発光量を設定し、< **◎** > を押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

5 撮影する

- 各グループが設定した発光量で発光します。

● ハイスピードシンクロ設定時は、設定範囲が1/1～1/64になります。

■ < **ALL** > に設定したときは、レシーバーの発光グループの設定はA、B、Cのどれでも構いません。すべてのグループが設定した発光量で発光します。

5

ストロボのカスタマイズ

この章では、カスタム機能（C.Fn）、パーソナル機能（P.Fn）によるストロボのカスタマイズについて説明しています。

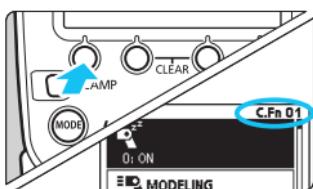


カメラの撮影モードが全自动モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉（応用撮影ゾーン）にしてください。

C.Fn / P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法 ■

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。この機能をカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、MT-26EX-RT特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能



1 カスタム機能画面にする

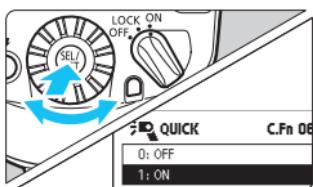
- 画面が表示されるまで、ファンクションボタン1 < **Z/C.Fn** > を長く押します。
→ カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

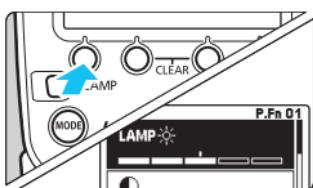
- < **○** > を回して設定する項目（番号）を選びます。

3 設定内容を変更する

- < **○** > を押します。
→ 設定項目が表示されます。
- < **○** > を回して希望する設定内容を選び、< **○** > を押します。



P.Fn: パーソナル機能



1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1の操作を行ったあと、ファンクションボタン1 < **P.Fn** > を押します。
→ パーソナル機能画面が表示されます。

2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

カスタム機能一覧

番号		項目	参照ページ
C.Fn-01		オートパワーオフ	p.101
C.Fn-02		モデリング発光	
C.Fn-03		FEB自動解除	
C.Fn-04		FEB撮影順序	
C.Fn-12		外部電源使用時の充電	p.102
C.Fn-13		調光補正の設定方法	
C.Fn-18		マクロ・フォーカシングランプ点灯	p.103
C.Fn-22		表示パネルの照明	

パーソナル機能一覧

番号		項目	参照ページ
P.Fn-01		マクロ・フォーカシングランプの明るさ	p.104
P.Fn-02		マクロ・フォーカシングランプの点灯時間	
P.Fn-03		表示パネルの濃度	
P.Fn-04		表示パネル照明の色	
P.Fn-05		クイック発光	p.105



ファンクションボタン1 </C.Fn> を長く押してもカスタム機能の画面が表示されないときは、カメラの電源を <OFF> にするか、ストロボをカメラから取り外した状態で操作してください。

カスタム機能／パーソナル機能一括解除

カスタム機能の画面で、ファンクションボタン2（**CLEAR**）を押して、ファンクションボタン1（**OK**）を押すと、設定されているカスタム機能を一括解除することができます。

また、パーソナル機能の画面で同じ操作を行うと、設定されているパーソナル機能を一括解除することができます。

 カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定／一括解除することができます (p.56)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01: (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒間放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

0 : ON (入)

1 : OFF (切)

 オートパワーオフが〈0: ON〉に設定されていても、フォーカシングランプの点灯中は電源は切れません。

C.Fn-02: MODELING (モデリング発光)

0 :  (する: 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光します。

1 :  (する: テスト発光ボタン)

ストロボのテスト発光ボタンを押すとモデリング発光します。

2 : / (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3 : OFF (しない)

モデリング発光を禁止します。

 カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光ボタンによるモデリング発光はできません。

C.Fn-03: AUTO CANCEL (FEB自動解除)

FEBで3枚撮影したあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

0 : ON (する)

1 : OFF (しない)

C.Fn-04: (FEB撮影順序)

FEB撮影時の 0:補正なし、-:マイナス補正(暗く)、+:プラス補正(明るく)の撮影順序を変更することができます。

0: 0→--→+

1: --→0→+

C.Fn-12: (外部電源使用時の充電)

0: + (ストロボ本体と外部電源)

内部電源と外部電源を使用した並列充電を行います。

1:  (外部電源のみ)

ストロボを制御するために内部電源も必要ですが、ストロボが発光するための充電は外部電源のみで行うため、内部電源の消耗を抑えることができます。

C.Fn-13: (調光補正の設定方法)

0: + (ボタン+ダイヤル)

1:  (ダイヤルで直接設定)

〈 〉ボタンを押さずに、直接〈◎〉を回して調光補正や発光量の設定を行うことができます。

C.Fn-18: LAMP (マクロ・フォーカシングランプ点灯)

0: LAMP (フォーカシングランプボタン)

〈LAMP〉ボタンを押すとフォーカシングランプが点灯／消灯します。

1:  (シャッターボタン半押し2回)

シャッターボタンの半押しを素早く2回行うと（ダブルクリックすると）、フォーカシングランプが点灯／消灯します。撮影時に両手がふさがっているときなどに有効です。〈LAMP〉ボタンで点灯／消灯を行なうこともできます。



- 1 設定時にAFでピント合わせを行うときは、シャッターボタンの押し方に注意してください。フォーカシングランプが不用意に点灯することがあります。
- EOS D60、EOS D30と組み合わせたときは、シャッターボタンをダブルクリックしても正しく動作しません。〈LAMP〉ボタンで点灯／消灯を行なってください。

C.Fn-22:  (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネルの照明が行なわれます。この照明の設定を変更することができます。

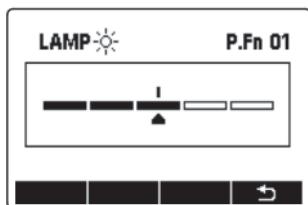
0: 12sec (12秒間照明)

1: OFF (照明しない)

2: ON (常時照明)

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: LAMP (マクロ・フォーカシングランプの明るさ)



フォーカシングランプの明るさを5段階で調整することができます。

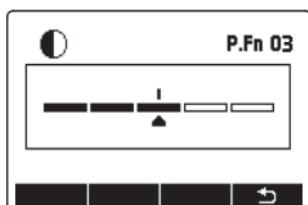
P.Fn-02: LAMP (マクロ・フォーカシングランプの点灯時間)

フォーカシングランプの点灯時間を選ぶことができます。

0 : 20sec (20秒)

1 : 5min (5分)

P.Fn-03: (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-04: (表示パネル照明の色)

表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0 : GREEN (緑)

1 : ORANGE (オレンジ)

P.Fn-05: QUICK (クイック発光)

充電の待ち時間を短くするため、充電ランプが緑色（フル充電前）の状態で発光させるか（クイック発光を行うか）どうかを設定することができます。

0 : ON (する)

1 : OFF (しない)

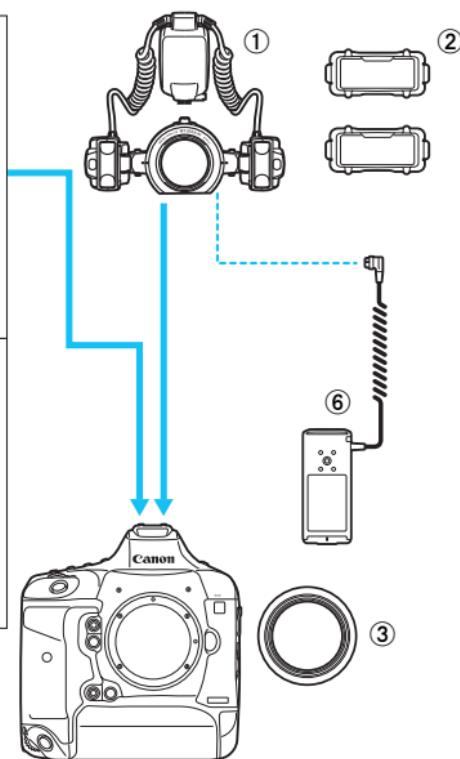
 連続撮影時にクイック発光（p.27）を行うと、発光量が低下するため露出アンダーになりやすくなります。

6

資料

この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

MT-26EX-RTのシステム



- ① マクロツインライト MT-26EX-RT
- ② ディフューザーアダプター SDA-E1 (MT-26EX-RTに付属)
- ③ マクロライトアダプター
発光部をレンズに取り付けるためのアダプターです (p.21)。

- ④ 電波通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライト
600EX II-RT、600EX-RT、430EX III-RT
- ⑤ 光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライト
600EX II-RT、600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、
430EX III-RT／430EX III、430EX II、430EX、420EX、320EX、
270EX II
- ⑥ コンパクトバッテリーパックCP-E4N
携帯性に優れた小型軽量の外部電源です。

- ⑤の中で発光グループ（A, B, C）の切り換え機能を備えていないスピードライトを使用したときは、光通信ワイヤレス増灯撮影時に発光グループAのレシーバーとして使用できます（発光グループB, Cのレシーバーとしては使用できません）。
- キヤノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因になることがあります。

■ 外部電源はコンパクトバッテリーパックCP-E4N（別売）の使用をおすすめします。

温度上昇による発光制限について

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部や電池、電池室付近の温度が高くなることがあります。

繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、発光間隔が約20秒までの範囲で段階的に長くなります。その状態でさらに繰り返し発光を行うと、自動的に発光制限が行われます。

なお、発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔（ストロボ撮影できる間隔）が強制的に約8秒（レベル1）、約20秒（レベル2）になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。レベル1の状態でさらに繰り返し発光を行うと、レベル2の状態になります。

表示	レベル1 (発光間隔：約8秒)	レベル2 (発光間隔：約20秒)
マーク		
表示パネル照明	赤色（点灯）	赤色（点滅）

連続発光回数と休止時間

警告表示（レベル1）までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間の目安は、次のとおりです。

機能	警告表示（レベル1）までの連続発光回数（目安）	必要休止時間（目安）
連続フル発光 (p.17) モデリング発光 (p.34)	48回以上	25分以上

⚠ 注意

連続発光を行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。
ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、
発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高
温になり、やけどの原因になる恐れがあります。



- 発光制限中に電池室ふたの開閉を行わないでください。発光制限が解除され
るため大変危険です。
- レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めていると
きは、発光間隔が長くなります。
- レベル2の警告が表示されたときは、25分以上休止してください。
- レベル1の警告が表示されたあと、発光を休止しても、レベル2の警告が表示
されることがあります。
- 高温下でストロボ撮影を行ったときは、前ページの表に示した回数よりも早
く発光制限が行われることがあります。
- 発光回数に関する注意については、17ページ（連続発光）、34ページ（モデ
リング発光）を参照してください。
- 温度上昇などの環境要因により、まれに発光しないことがあります。
- ディフューザーアダプターを使用したときは、警告表示までの発光回数がや
や少なくなります。
- C.Fn-22-1設定時は（p.103）、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの赤
色照明による警告表示は行わせません。
- コンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売）使用時は、CP-E4N 使用説明
書をあわせてお読みください。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

●通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか、確認してください (p.18)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.18)。
- 新しい電池に交換してください。
- 外部電源 (p.109) を使用するときも、ストロボ本体に電池を入れてください。

ストロボが発光しない

- 制御部の取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.20)。
- 30秒たっても <**CHARGE**> の表示が消えないときは、電池を交換してください (p.18)。
- 制御部とカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (p.11) を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、発光間隔が長くなります (p.110)。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (p.27)。

露出アンダー／オーバーになる

- 画面内に反射率の高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.42)。
- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (p.40)。

- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (p.43)。
- レシーバー Cを直接、主被写体に向けて発光させないでください (p.58、82)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で絞り優先AE (**Av**) モードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に（シャッター速度が遅く）なります。三脚を使用するか、プログラムAE (**P**) または全自動モードで撮影してください (p.32)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度] で同調速度を設定することもできます (p.54)。

機能が設定できない

- カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)- ストロボの電源スイッチを〈**LOCKON****

表示パネル照明が点いたり消えたりする

- レシーバー（発光グループ）の充電状態に応じて、センダーの表示パネル照明が点灯／消灯します。72ページの『表示パネル照明について』を参照してください。

カメラのメニュー画面から光量比の設定ができない

- ストロボを操作して設定してください (p.38)。

●電波通信ワイヤレス増灯撮影

レシーバーが発光しない／意図せずフル発光する

- センダーを〈**(P) SENDER**〉、レシーバーを〈**(P) RECEIVER**〉に設定してください (p.64)。
- センダーとレシーバーの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください (p.65、66)。
- レシーバーがセンダーの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.58)。
- 通信チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください (p.66)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレシーバーを設置してください。
- レシーバー本体の正面部分をセンダーに向けてください。

露出オーバーになる

- 発光グループA、B、Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.74)。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈**ETTLExt.A**

〈**①Tv**〉が表示される

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度から1段遅くしてください (p.62)。

レシーバーからのリモートリリーズができない

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、レシーバーからのリモートリリーズはできません。

●光通信ワイヤレス増灯撮影

レシーバーが発光しない／意図せずフル発光する

- センダーを〈 SENDER〉、レシーバーを〈 RECEIVER〉に設定してください (p.85)。
- レシーバーの発光グループが適切に設定されているか確認してください。
- センダーとレシーバーの通信チャンネルを同じ設定にしてください (p.86)。
- レシーバーがセンダーの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.82)。
- レシーバーのワイヤレス受信部をセンダーに向けてください (p.82)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所にレシーバーを設置してください。
- センダーとレシーバーの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.92)。

主な仕様

■型式

型式	E-TTL II/E-TTL自動調光 近接撮影専用ツイン式ストロボ
使用カメラ	EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II／E-TTL自動調光) EOS・Bタイプカメラ (自動調光撮影不可)
照射角	上下約65°、左右約65° (発光部基準位置/片側)
発光部可動角	基準位置より垂直方向： 上方45° (22.5° 間隔) / 下方45° (22.5° 間隔) 水平方向： 内側60° (15° 間隔) / 外側30° (15° 間隔) 取り付けリング上の回転： 上方50° (5° 間隔) / 下方30° (5° 間隔)
ガイドナンバー	両側発光時：26.0 (ISO100・m) 片側発光：19.9 (ISO100・m)
閃光時間	通常発光：約1.8ms以下、クイック発光：約2.3ms以下
色温度情報通信	発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信
フィルター	発光部前面にΦ58mmのフィルター取り付け可能
フォーカシングランプ	照射角 上下：約60°、左右：約60° 光量調整可能

■露出制御

露出制御方式	E-TTL II／E-TTL自動調光、マニュアル発光
調光連動範囲	発光部の角度、使用するレンズなどにより異なる
発光形態	両側発光/片側発光
光量比制御	8:1～1:1～1:8、1/2段ステップ
調光補正	1/3、1/2段ステップ±3段
FEB	1/3、1/2段ステップ±3段 (調光補正との併用可能)
FEロック	カメラのマルチファンクションボタン、またはFEロック/AEロックボタンによる
ハイスピードシンクロ	可能 * 電波通信ワイヤレス増灯撮影時は、2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ (EOS Kiss X80/X70を除く) 使用時のみ可能

マニュアル発光.....	1/1～1/512発光（1/3段ステップ）
	* 電波通信または光通信ワイヤレス増灯撮影時は1/1～1/128発光
	* ハイスピードシンクロ撮影時は1/1～1/64発光

モーデリング発光.....カメラの絞り込みボタン、ストロボのテスト発光ボタンによる

■ストロボ充電

発光間隔（充電時間）.....	通常発光：約0.1～5.5秒、クイック発光：約0.1～3.3秒
	* 単3形アルカリ乾電池使用時

充電ランプ.....赤色点灯：通常発光可能
緑色点灯：クイック発光可能

■電波通信ワイヤレスセンター機能

周波数.....	2405MHz～2475MHz
変調方式.....	1次変調：OQPSK、2次変調DS-SS
ワイヤレス設定.....	センター
通信チャンネル.....	オート、Ch.1～15
電波通信ID.....	0000～9999
レシーバー制御.....	最大5グループ（A, B, C, D, E）、最大15台
レシーバー設定.....	発光グループA, B, C, D, E
通信可能距離.....	約10m
	* センダー～レシーバー間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合
	* 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある

■光通信ワイヤレスセンター機能

通信方式.....	光パルス
通信チャンネル.....	Ch.1～4
レシーバー制御.....	最大3グループ（A, B, C）
通信可能範囲.....	屋内：約0.2～10m、屋外：約0.2～6m（正面時）

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....	8種
パーソナル機能.....	5種

主な仕様

■電源

本体電源 単3形アルカリ乾電池 4本 * 単3形ニッケル水素電池使用可能
発光回数 約100～700回 * 単3形アルカリ乾電池使用時
節電機能 約90秒間無操作で電源OFF * 電波通信ワイヤレス増灯撮影時は約5分間無操作で電源OFF
外部電源 コンパクトバッテリーパック CP-E4N 使用可能

■大きさ・質量

大きさ 発光部： 約62.3（幅）×55.8（高さ）×49.1（奥行）mm
	制御部： 約69.5（幅）×112.5（高さ）×90.0（奥行）mm
	取り付けリング： 約136.6（幅）×91.1（高さ）×29.9（奥行）mm
質量 約570g（ストロボ本体のみ、電池別）

■動作環境

使用可能温度 0° C～+45° C
使用可能湿度 85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

製品に表記している図記号について

— 直流

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分してください。

ガイドナンバー（約・ISO100・m）

通常発光

発光量	両側発光	片側発光
1/1	26.0	19.9
1/2	18.4	14.1
1/4	13.0	10.0
1/8	9.2	7.0
1/16	6.5	5.0
1/32	4.6	3.5
1/64	3.3	2.5
1/128	2.3	1.8
1/256	1.6	1.2
1/512	1.2	0.9

ハイスピードシンクロ（フル発光時）

シャッター速度	両側発光	片側発光
1/125	16.2	12.4
1/160	15.4	11.8
1/200	14.4	11.0
1/250	12.8	9.8
1/320	11.4	8.8
1/400	10.2	7.8
1/500	9.1	7.0
1/640	8.1	6.2
1/800	7.2	5.5
1/1000	6.4	4.9
1/1250	5.7	4.4
1/1600	5.1	3.9
1/2000	4.5	3.5
1/2500	4.0	3.1
1/3200	3.6	2.8
1/4000	3.2	2.5
1/5000	2.9	2.2
1/6400	2.5	2.0
1/8000	2.3	1.7

Bタイプカメラとの組み合わせ

マクロツインライト MT-26EX-RTとBタイプカメラ（TTL自動調光に対応したEOSフィルムカメラ）を組み合せたときに使用できる機能は、マニュアル発光（p.45）と後幕シンクロ（p.44）のみです。それ以外の機能は使用できません。

Bタイプカメラに取り付けたときは、ストロボの表示パネルに〈ETTL〉と表示されますが、自動調光撮影はできません。

電波通信ワイヤレス機能について

■電波通信ワイヤレス機能が使える国や地域について

電波通信ワイヤレス機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられことがあります。そのため、電波通信ワイヤレス機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で電波通信ワイヤレス機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■モデルナンバー

MT-26EX-RT : DS401211 (電波通信モジュールモデル : CH9-1216)

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- MT-26EX-RTには、電波法に基づく認証を受けた電波通信装置が内蔵されており、証明ラベルは電波通信設備に添付されています。

■電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。



この表示は、2.4GHz帯を使用している電波通信機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。



索引

英数字

- 18%標準反射板 48
4秒/6秒/8秒/10秒/16秒タイマー 4
Av (絞り優先AE) 32
Avモード時のストロボ同調速度 54
Aタイプカメラ 2
Bタイプカメラ 121
C.Fn 98, 101
E-TTL II/E-TTL自動調光 30, 32
E-TTL II (調光方式) 54
FEB 41, 55
FEロック (FEL) 42
Gr (グループ発光) 78
LOCK 28
M (マニュアル露出) 32
P.Fn 98, 104
P (プログラムAE) 30, 32
RATIO 38, 69, 74, 76, 88, 92, 94
TTL自動調光 121
Tv (シャッター優先AE) 32

あ

- アクセサリー 15
アクセサリーシュー 20
後幕シンクロ 44, 55
安全上のご注意 8
一括解除 56, 100
色温度情報通信 34
応用撮影
ゾーン 4, 51, 57, 81, 97, 113

- 応用マーク 4

- オートパワーオフ 28, 101

- 温度上昇 110

か

- ガイドナンバー 120
外部電源 102, 109
各部名称 10
カスタム機能
(C.Fn) 98, 101
片側発光 39, 47
機能設定 51
クイック発光 18, 27
グループ制御 61, 84
グループ発光 78
警告表示 62, 110
ケース 15
光量比制御 55
A:B 38, 70, 89
A:B C 69, 74, 88, 92
RATIOボタン 38, 46, 64, 85

さ

- システム図 108
シャッター速度 32
充電 27
充電ランプ 27, 70, 89, 105
初期化 49, 55
シンクロ設定 55
スキャン 66
ストロボ機能設定 51

索引

ストロボ制御	52
ストロボ同調速度	54, 62
ストロボ配置	58, 82
ストロボメータードマニュアル	48
全自動ストロボ撮影	30
センダー	64, 85
増灯撮影	58, 82
た	
調光確認ランプ	30, 89
調光方式	54
調光補正	40, 55, 73, 91
調光レベル	12, 40, 48
調光連動範囲	35
通常発光	18, 120
通信可能距離	58, 60
通信可能範囲	82
通信チャンネル	86
ディフューザー	
アダプター	15, 36, 108
テスト発光	27, 71, 89, 101
電源スイッチ	27
電池	18
電波通信ID	65
電波通信ワイヤレス撮影	
グループ発光	78
電波通信ワイヤレス増灯撮影	57
同調速度	62

は	
パーソナル機能	
(P.Fn)	98, 104
ハイスピード	
シンクロ	43, 63, 73, 91
発光回数	18
発光間隔	17, 18, 110
発光グループ	58, 61, 74, 76, 78, 82, 84, 92, 94
発光制限	110
発光部	10
切り換え	39, 47
発光モード	12, 30, 54
発光量	45, 76, 94
光通信ワイヤレス増灯撮影	81
表示パネル	12
照明	29, 72, 103, 104
濃度	104
フィルター	25
フード	26
フォーカシングランプ	33, 103, 104
ま	
マクロライトアダプター	21, 108
マニュアル発光	45, 76, 94
片側発光	47
増灯撮影	76, 94
発光量	45, 76, 94
メモリー機能	68, 87
モデリング発光	34, 101

ら

- レシーバーストロボ
充電確認 70, 72, 80, 89
レシーバー設定 64, 85
ロック機能 28

わ

- ワイヤレス撮影 57, 81
ワイヤレス作動範囲 58, 82
ワイヤレス設定 64, 85
ワイヤレス増灯撮影
A:B C 64, 69, 74, 85, 88, 92
マニュアル発光 76, 94

Canon